

1 — 2
種子植物

X 消息不明・絶滅生物



ヒメバイカモ 2008年5月30日 宮城県産 / 東京都栽培 大場達之

X ヒメバイカモ キンボウゲ科

消息不明・絶滅

Ranunculus trichophyllus Chaix var. *kazusensis* (Makino) Wiegleb

絶滅危惧 IB 類 (EN)

【種の特性】沈水性の二年生草本、環境によっては一年生、冬から春にかけて茂り夏には枯れるが、熊本市水前寺公園のように冷涼な湧水に涵養されるところでは夏にも存続し多年生となる。葉は3出複葉で互生。通常沈水葉だけをつけるが、キクモのように陸生形となることもある。虫媒で水散布。バイカモに似るが全体小型で特に花柄が1-3cmと短かく、花托に毛がある。水田および周囲の水路、池・沼に生える。熊本市では阿蘇からの湧水地に見られる。バイカモ群団。[HH]

【分布】本州（宮城、千葉、埼玉、山口）・九州。朝鮮。牧野富太郎が上総一宮の水田で採集した標本に基づき記載された種類で、千葉県は基準産地となる。

【県内の状況】九十九里沿岸にのみ知られ、山武郡鳴浜村、茂原市～長生村八積、一宮町、東浪見などの記録があり、最も新しい標本は一宮（1935 原寛 T1）と東浪見（1935 富樫誠 T1）である。

【保護対策】現在消息不明であるが、分布域の精査により再発見の可能性がある。もし残存個体があれば、生育地の環境を良好に維持することが望ましい。

【文献】Makino, T. 1929 J. Jpn. Bot. 4 : 8 / 牧野富太郎 1950 図説普通植物検索表 . 11 図版 / Wiegleb, G. 1988 Notes on Japanease *Ranunculus* subgenus *Batrachium*. Act. Phytotax. Geobot. 39 : 117-132 / 角野康郎 (1994) 日本水草図鑑 : 105 / 千植誌 2003 : 198, 206.

【写真】2004.5.11 宮城県仙台市産 谷城勝弘 .
(大場達之 / 谷城勝弘 追補)



X バイカモ キンボウゲ科

消息不明・絶滅

Ranunculus nipponicus (Makino) Nakai var. *submersus* H.Hara

【種の特性】多年生草本。葉は複3出複葉で互生。沈水葉は細かく裂ける。虫媒で水散布。水面に5弁の白い花を咲かせる。花弁基部は黄色である。清らかな流水に生える。バイカモ群団。[HH]

【分布】北海道・本州。

【県内の状況】柏市大室、旧天津小湊町の記録があるが、近年は観察されていない。絶滅したものと考えられる。

【保護対策】分布域の精査により再発見の可能性がある。

【文献】Wiegleb, G. 1988 Notes on Japanease *Ranunculus* subgenus *Batrachium*. Act. Phytotax. Geobot. 39 : 117-132 / 角野康郎 1994 日本水草図鑑 104.

【写真】
1990. 富山県 大場達之 .
(大場達之)



X ヤマシャクヤク ボタン科

消息不明・絶滅

Paeonia japonica Miyabe et Takeda

準絶滅危惧 (NT)

【種の特性】やや大形の多年生草本。茎は高さ 30 ~ 40cm。葉は 3 出複葉で互生。花は白色で大きく 5 月に上向きに咲く。虫媒で重力散布。肥沃で適湿な夏緑林の林床に生える。低地遺存ブナ帯要素。[G]

【分布】本州（関東・中部以西）・四国・九州。朝鮮。

【県内の状況】佐倉市志津と旧山武町日向に記録があるが標本は見えていない。

【保護対策】花が美しいので観賞用に採取される可能性が高く、採取・販売・栽培をしないことが望ましい。

【文献】新干植誌 1975 : 423.

【写真】1985 神奈川県 大場達之.

(大場達之)



X ムジナモ モウセンゴケ科

消息不明・絶滅

Aldrovanda vesiculosa L.

絶滅危惧 IA 類 (CR)

【種の特性】食虫浮遊性の多年生草本。葉は単葉で輪生。花は 7 ~ 8 月に開き、5 弁で白緑色。虫媒で水散布。貧栄養の酸性の水域に浮かぶ。ウキクサ群綱。[HH]

【分布】利根川水域、淀川水域、信濃川水域。アムール、インド、ヨーロッパ。日本の自生地ではすべて絶滅し栽培品が残るだけで、埼玉県羽生市で放流が試みられているが成功していない。

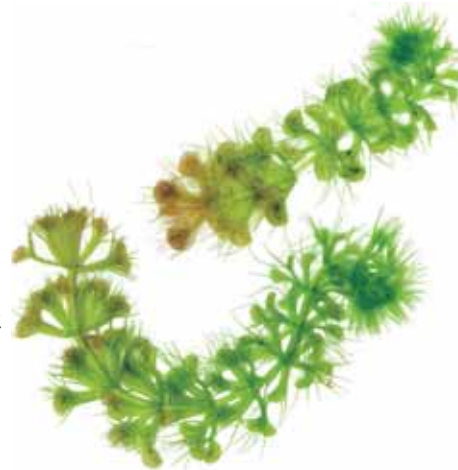
【県内の状況】古くは 1890 年に市川市国府台で採集された標本がある（国立科学博物館 -6293）。また佐原市（御園勇）旧成東町（小倉健）の報告があるがいずれも絶滅。成東町のもは移植によるものであった可能性が強い。佐原市丸江湖（埋め立てられて現存しない）の産地は、利根川対岸の霞ヶ浦地域には数ヶ所の自生地が知られていたため、それらと一連の分布であったと考えられる。千葉県産のものはすべて原産地において絶滅し、栽培個体も残っていない。

【保護対策】もし県内産の系統が発見されたら水生植物園のような施設で種の存続をはかることが望ましい。

【文献】佐原町誌 1931 91. 佐原町 / 腰野文男 1959 佐原市の食虫植物。佐原総説シリーズ第 2 輯。34 頁。佐原市 / 小宮定志 1988 ムジナモの分布の変遷と現況、保護方策。水草研究会会報 33・34 : 25-26 / 干植誌 2003 : 219, 223.

【写真】2004.8.11 埼玉県栽培 大場達之.

(大場達之)



X ミズタガラシ アブラナ科

消息不明・絶滅

Cardamine lyrata Bunge

絶滅危惧 IA 類 (CR)

【種の特性】中形の多年草。機器は高さ 30 ~ 60cm で、花のあと倒伏する、花の時期に、茎の基部から長い匍匐枝を出す。花は 4 ~ 5 月で白色。花弁は萼片の 2 ~ 3 倍の長さがある。虫媒で自散。(H) 水田や湿地に生える。

【分布】本州(関東以西)・四国・九州。朝鮮・中国・モンゴル・東シベリア・極東ロシア。

【県内の状況】市川市(寺崎留吉) 印旛沼周辺などに知られていたが 1940 年以降記録がない。西船橋の記録もあるが標本がなく確認できない。

【保護対策】絶滅の原因が明らかでないので、残存する他県での生育状態を調べて情報を収集する必要がある。富山県などでは水田に一面に生えているところがあるという。

【文献】寺崎留吉 1933 寺崎日本植物図譜 218 / 千植誌 2003 : 247, 243 / 平凡社版日本の野生植物 II.PL.127 の写真はタネツケバナの誤りと考えられる。

【写真】1940.7.21. 千葉県印旛沼 浅野貞夫採集 CBM-BS166048. 千葉県立中央博物館所蔵標本。

(大場達之)



X ハナハタザオ アブラナ科

消息不明・絶滅

Dontostemon dentatus (Bunge) Ledeb.

絶滅危惧 IB 類 (EN)

【種の特性】二年生草本。茎は直立し高さ 15 ~ 60cm。葉は単葉で互生。花は 6 ~ 7 月に咲き紅紫色。虫媒で風散布。乾いた岩棚、崩壊地の周辺、砂地、礫地などのオープンな環境に生える。[Th]

【分布】本州(東北、関東、中部)。中国、サハリン、ロシア極東部。

【県内の状況】海上町と東金市で採集された標本があるが、近年の記録はない。限られた環境に少数の個体が生えるだけなので絶滅したものと考えられる。

【保護対策】かつての生育地の環境を明らかにする必要がある。

【文献】新千植誌 1975 : 418 / 千植誌 2003 : 250, 243.

【写真】2001 茨城県 大場達之。

(大場達之)



× イワレンゲ ベンケイソウ科

消息不明・絶滅

Orostachys malacophylla (Pall.) Fisch. var. *iwarenge* (Makino) H. Ohba

絶滅危惧Ⅱ類 (VU)

【種の特性】通常、直径7 cm程度のロゼットを形成する常緑の一回稔性多年生草本。開花前に栄養繁殖する。開花株の高さは10～30 cm。海岸の岩場などに生える。かつては茅葺き屋根などにも生えていた。太い主根から細い根を出す。葉は倒卵形で、鋭頭、らせん葉序。葉は全縁で、無毛、多肉。花は秋に咲く。花は密な総状花序につく。花柄は約10 mm。花は5数性で、萼片は狭卵形で、鋭頭。花弁は、倒披針形。白色で、長さ約5 mm。雄しべの数は10本、葯の色は黄色。離生心皮は5つ。果実は蒴果で、熟すと上部から裂ける。虫媒で、風散布。エゾオオバコ・ウシノケグサ群網。[H]

【分布】本州。

【県内の状況】富津市、君津市、旧成東町、鋸南町、旧大原町などで記録されているが、近年は報告がない。かつては茅葺きなどの屋根に生えていたが近年は見られない。絶滅が心配される。

【保護対策】生育環境を良好に維持することが望ましい。観賞用の採取・販売・栽培をしないことが望ましい。

【文献】亙理俊次 1982 日本の野生植物草本Ⅱ：PL.141. / 亙理俊次 1992 芝棟・屋根の花園を訪ねて：97. / 千植誌 1958 372 / 新千植誌 1975 415 / 千植誌 2003 244,250.

【写真】1934. 成東栽培（左）1940. 金谷（右）千葉県立中央博物館所蔵標本。

（大場達之 / 天野 誠 追補）



× コチャルメルソウ ユキノシタ科

消息不明・絶滅

Mitella pauciflora Rosend.

【種の特性】小型の夏緑の多年生草本。沢沿いの湿った林に見られ、ブナ帯に主として分布する。根茎が発達し、数本の花茎を立てる。葉はほぼ根出葉、長柄がある。卵形で、荒く不規則に切れ込む。両面に剛毛が生える。花序は総状で、頂生する。花は5数性。萼片は卵形で、反り返る。花弁は魚骨状で、長さ2～3 mm、緑色。雄しべは花糸が短く、葯が黄色が目立つ。雌しべは2心皮で、離生。果実は蒴果で、上部から裂けて、種子を散布する。虫媒で、水散布。低地遺存ブナ帯要素。[H]

【分布】本州・四国・九州。

【県内の状況】新千植誌では伊藤至と東大所蔵の清澄山の記録があるが、東大では標本が確認できなかった。

【文献】千植誌 1958：372 / 千植誌 2003：256, 263.

【写真】1986年4月 広島県 大場達之。
（大場達之 / 天野 誠 追補）



X ヒロハクサフジ マメ科

消息不明・絶滅

Vicia japonica A. Gray

【種の特性】多年生草本。葉は羽状複葉で互生し、葉軸の先端は巻ひげになる。虫媒で重力散布。花は紅紫色、終わり頃には青みがかる。植物体上に毛が多い。砂浜の後背地に生える。[H]

【分布】北海道・本州（近畿以東）・南千島。サハリン、朝鮮。

【県内の状況】1951年に若名東一により富津洲にて標本が採集（千葉県立中央博物館所蔵）されて以来、ほかに採集された標本はなく、生育の確認もされていない。本種は、県内では、これまでしばしば同属のノハラクサフジと誤認されてきた。

両者は花柱の形態の違いで容易に識別できる。ヒロハクサフジでは花柱が背腹方向に扁平であるが、ノハラクサフジでは円柱形である。富津岬の対岸の三浦半島観音崎には現在もヒロハクサフジが見られる。

【保護対策】生育環境を良好に維持することが望ましい。

【文献】遠藤泰彦・大橋広好 1994 植物研究雑誌 69 : 379-382 / 千植誌 2003 : 309, 317.

【写真】1998 神奈川県 大場達之。
（遠藤泰彦 / 大場達之 追補）



X オオクマヤナギ クロウメモドキ科

消息不明・絶滅

Berchemia magna (Makino) Koidz.

【種の特性】つる生の夏緑低木～亜高木。葉は互生、長さ4～10cm、乾くと黄色くなる。花は7～8月。円錐花序で花は小さく淡黄緑色。果実は赤から黒色に熟す。

【分布】本州（関東以西）・四国・九州。中国。

【県内の状況】清澄山からのみ報告があり、千葉県立中央博物館には君津市郷台（CBM-BS-9347 若名東一）と清澄山三つ叉の瀬（CBM-BS-9561 行方沼東）の標本があるが、この標本は1958年9月7日の同一日に採集されたもので同一箇所と推定される。

【保護対策】林縁低木のニホンジカによる食害を防ぐ。

【文献】千植誌 1958 : 355 / 千植誌 2003 : 356, 360.

【写真】1958.09.07 君津市 千葉県立中央博物館所蔵標本。

（大場達之）



X エゾノタチツボスミレ スミレ科

消息不明・絶滅

Viola acuminata Ledeb.

【種の特性】多年生草本。葉は単葉で互生。虫媒で虫散布。日本産のスミレとしては大形で果実期には高さ 40cm に達する。明るい夏緑林から草原に生える。低地遺存ブナ帯要素。[H]

【分布】北海道・本州（中部以北）。朝鮮、中国、ロシア極東部、東シベリア。

【県内の状況】古く旧八街市木原（1933）と千葉市土気（1951）からの記録があり、標本は千葉県立中央博物館に収蔵されている。その後岬町などからの報告があるがタチツボスミレの誤認と考えられる。

【保護対策】生育環境を良好に維持することが望ましい。

【文献】新千植誌 1975：395 / 千植誌 2003：377, 383.

【写真】1975.5. 長野県 大場達之.

(大場達之
/ 谷城勝弘
追捕)



X ヒメキカシグサ ミソハギ科

消息不明・絶滅

Rotala elatinomorpha Makino

絶滅危惧 IA 類 (CR)

【種の特性】小型の一年生草本。葉は単葉で対生。虫媒で水散布。キカシグサの水の深いところに生えた一型という説もある。しかし、東京大学の標本は栽培したものを標本にしたにもかかわらず本来の形態を保っていることからすると独立種の可能性が高い。湿地に生える。アゼナ群団。[Th]

【分布】本州（千葉）・四国（高知）

【県内の状況】1902年に牧野富太郎により高知県岩目地と千葉県臼井のものを基準標本として記載されたが、その後ほかの地域からは採集されていない。基準標本は首都大学東京牧野標本館に収蔵されており、高知県のものが正基準標本に選定されている（MAK-152329）。臼井ではその後久内清孝（東京大学）と渡辺清彦（国立科学博物館）により採集されている。渡辺は千葉県植物誌（1958）の巻頭にヒメキカシグサを図説した。これは前記の採集品に基づいたものであろう。新版千葉県植物誌（1975）に「牧野富太郎博士、Sep.10、1953、臼井付近印旛沼畔に採集、typeの一つ」とあるが採集されたのは1895年である。

【保護対策】生育地周辺の詳細調査により発見できる可能性がある。発見されなくても埋土種子として残っている可能性があるため裸地を新しく作るなどして、再生を促すことも考えられる。

【文献】牧野富太郎 1910 植物学雑誌 100-101 / 渡辺清彦 1958 千植誌 1958：9 / 新千植誌 1975：394 / 千植誌 2003：392, 388 / 平凡社版 日本の野生植物 II pl.238 にあるヒメキカシグサの写真はヒメミソハギなので注意が必要である。

【写真】1961. 印旛沼 首都大学東京牧野標本館所属標本.

(大場達之)



X ミズスギナ ミソハギ科

消息不明・絶滅

Rotala hippuris Makino

絶滅危惧 IB 類 (EN)

【種の特性】沈水性の多年生草本。葉は単葉で輪生、細かく裂ける。虫媒で水散布。花は水中で咲くので水媒性と考えられる。日本固有種と考えられているが、中国からインドにかけて近似の種類があり、今後比較検討が必要である。池・沼に生える。ヒルムシロ群綱。[HH]

【分布】本州（関東以西～近畿）・九州。

【県内の状況】1928年に旧成東町と神崎町で採集されているが、その後の記録は見られず、絶滅したものと考えられる。

【保護対策】旧生育地には埋土種子として残っている可能性があるの
で、生育可能な環境を保全し、回復を試みる事が望ましい。

【文献】與世里盛春

1932 千葉県の植物．22 図版／千植誌
2003：392, 388.

【写真】1928. 6. 16 旧
成東町 千葉県立中
央博物館所蔵標本．
(大場達之)



X タチモ アリノトウグサ科

消息不明・絶滅

Myriophyllum ussuriense (Regel) Maxim.

準絶滅危惧 (NT)

【種の特性】水中または湿地に生える多年生草本。茎は分岐せず、葉は節に3～4個輪生する。雌雄異株。雄花も雌花も葉腋に小さな花を1個つける。水中に生えるものは長さ50cm前後に成長するが、湿地に生えるものは10cm程度にしかない。

【分布】北海道・本州・四国・九州。中国、ロシア東部、北米北部。

【県内の状況】山武郡成東村成東東金食虫植物保護地（1928.06.28, 與世里盛春, CBM-BS25218）、長生郡長生村一松（1934.07, 浅野貞夫, CBM-BS-178610；

1935.09.29, 若名東一, CBM-BS-5534；1937.07, 浅野貞夫, CBM-BS-233994）、印旛郡印旛沼（1940.07.21, 浅野貞夫, CBM-BS-166047）の標本が千葉県立中央博物館にある。その後は発見されていない。本種は貧栄養の池沼やその岸辺を生育の適地とするが、県内の各池沼では富栄養化が著しく進行しており、消滅したと考えられる。

【保護対策】富栄養化の進行を抑え、植物の多様性に富む水域を復活させることが望ましい。

【文献】植物誌 2003：405, 400

【写真】1940.7.21. 印旛沼 千葉県立中央博物館所蔵標本．

(谷城勝弘)



× サワトラノオ サクラソウ科

消息不明・絶滅

Lysimachia leucantha Miq.

絶滅危惧 IB 類 (EN)

【種の特性】多年生草本。茎は直立し 30 ~ 50cm。茎の上部に総状に白い花を多数つける。葉は単葉で互生。虫媒で水散布。湿地に生える。オギ・ヨシ群団。[HH]

【分布】本州・四国・九州。朝鮮、中国、アムール、ウスリー。

【県内の状況】利根川沿いの氾濫原などに生え、佐原市、小見川町と印旛村の報告があるほか成東町にもあったというが確認できない。

【保護対策】生育環境を良好に維持することが望ましい。

【文献】新千植誌 1975 : 386 / 千植誌 2003 : 436, 439.

【写真】1951.5.18 静岡県 千葉県立中央博物館所蔵標本。

(大場達之)



× チョウジソウ キョウチクトウ科

消息不明・絶滅

Amsonia elliptica (Thunb.) Roem. et Schult.

準絶滅危惧 (NT)

【種の特性】多年生草本。地下茎があって群れて生える。茎は直立し上部で枝を分かち、葉は単葉で互生、花は 4 ~ 6 月に咲き、紫色で、主茎の先端に集散状につける。虫媒で水散布。地下に根茎を引き群生する。河川氾濫源の湿原あるいはハンノキ林の下に生える。[G] ヨシ群網。

【分布】北海道・本州・九州。朝鮮、中国。

【県内の状況】利根川沿岸の野田市、下総町、我孫子市で採集された標本があるが、1959 年以降記録されていない。

【保護対策】利根川の氾濫源の生育環境を良好に維持することが望ましい。観賞用の採取・販売・栽培をしないことが望ましい。

【文献】新千植誌 1975 : 383 / 千植誌 2003 : 462, 454.

【写真】2002. 茨城県 大場達之。

(大場達之)



X カイジンドウ シソ科

消息不明・絶滅

Ajuga ciliata Bunge var. *villosior* A.Gray

絶滅危惧 II 類 (VU)

【種の特性】多年生草本。葉は単葉で対生。虫媒で重力散布。自然～半自然草原に生える。[H]

【分布】北海道・本州・九州。

【県内の状況】県北部のススキ草原に見られたが、現在は記録がない。最も新しい記録は1952年である。

【保護対策】管理されたススキ草原を復元することが望ましい。

【文献】寺崎留吉 1933 日本植物図譜：268 / 若名東一 1933 上総国日向村植物目録 / 千植誌 2003 : 489, 493.

【写真】1928.5.13 市川市 千葉県立中央博物館所蔵標本。



(大場達之)



X ムシャリンドウ シソ科

消息不明・絶滅

Dracocephalum argunense Fisch.

絶滅危惧 II 類 (VU)

【種の特性】多年生草本。葉は単葉で対生。花は夏に咲き青紫色。虫媒で重力散布。乾き気味の自然～半自然草原に生える。北海道では海岸付近の草原に多い。[H] ススキ群目。

【分布】北海道・本州。朝鮮。

【県内の状況】八街市、長生村、一宮町などの記録があるが、近年は観察されていない。最も新しい記録が八街の1935年である。ススキ草原の衰退とともに減少したものであろう。

【保護対策】人為的な刈り取りにより管理された半自然の草地を保全することが望ましい。

【文献】新千植誌
1975 : 376 / 千
植誌 2003 : 506,
510.

【写真】
1987.6.7. 青森県
福田洋.

(大場達之)



× セキヤノアキチョウジ シソ科

消息不明・絶滅

Rabdosia eusa (Maxim.) H.Hara

【種の特性】多年生草本。葉は単葉で対生。虫媒で重力散布。夏緑林の日陰の林縁に生える。空中湿度の高い谷筋に多く見られる。低地遺存ブナ帯要素。フジアザミ - ヤマホタルブクロ群団。[H]

【分布】本州（関東～中部の太平洋側）。それより西では近縁のアキチョウジに置き換わる。

【県内の状況】鴨川市嶺岡山での採集記録があるほか、若名東一採集による旧山武町での採集標本が千葉県立中央博物館に複数あるが、1956 年を最後としてその後の記録は見られない。

【保護対策】現在消息不明であるが、山武町などには生育可能な谷津の斜面が多く残されており、今後の精査によっては再発見の可能性は残されている。



【文献】

新千
植誌

1975 :
378 /
千植誌
2003 :
492,
495.

【写真】

1998.
長野県
大場
達之・
(大場
達之)



× コナミキ シソ科

消息不明・絶滅

Scutellaria guilielmi A.Gray

絶滅危惧Ⅱ類 (VU)

【種の特性】多年生草本。葉は単葉で対生。虫媒で風散布。細い地下茎を伸ばして増える。花は白色で5月に咲く。海岸近くの草地あるいは明るいクロマツ林の下などに生える。[H]

【分布】本州（千葉県以西）・四国・九州・琉球。

【県内の状況】1937 年に浅野貞夫が和田町の海岸で採集し、1974 年にはその産地が海岸の道路工事で失われたことを報告している。この地点はコナミキの北限産地であった。その標本は千葉県立中央博物館に収蔵されている。

【保護対策】再生は困難であろう。



【文献】浅野貞夫 1951 房州にコナミキ自生す。採集と飼育 13(9) : 293-294 / 浅野貞夫 1974 房総半島から消えた東限産地のコナミキ。植物採集ニュース 74 : 25 / 千植誌 2003 : 490, 494.

【写真】1938.6. 和田町 千葉県立中央博物館所蔵標本。

(大場達之)



X ナミキソウ シソ科

消息不明・絶滅

Scutellaria strigillosa Hemsl.

【種の特性】小～中型の夏緑多年生草本。細い地下茎を広げ群れて生える。葉は単葉で対生。花は夏で、上部の葉脇に青紫色の花をつける。虫媒で風散布。海岸の砂浜および湿原に生える。[H]

【分布】北海道・本州・四国・九州。朝鮮、中国、千島、サハリン、アムール、ウスリー。

【県内の状況】茂原～八積、安房天津、銚子市松岸での記録がある。

【保護対策】

【文献】千植誌 2003 : 490, 494.

【写真】1957.5.29 鴨川市 千葉県立中央博物館所蔵標本。
(大場達之)



X クチナシグサ ゴマノハグサ科

消息不明・絶滅

Monochasma japonicum Makino

【種の特性】半寄生性の二年生草本。葉は単葉で対生。茎は地表をわずかに斜上し、葉とともに紫褐色を帯び、細かな毛が多い。花は4～5月に咲き、白色。虫媒で虫散布。夏緑林、特にクヌギ・コナラなどの二次林に生える。[Th] 別名カガリビソウ。

【分布】本州・四国・九州。

【県内の状況】かつては稀なものではなかったが、里山の二次林が管理されなくなってから極めて稀になっている。柏市、松戸市、八街市、東金市、茂原市、鴨川市などからの記録があるが、地名の記述が不足なので、分布図に表示できないデータが多い。

【保護対策】生育地の二次林のアズマネザサなどを刈り取り、林床を明るく保つことが望ましい。

【文献】篠崎信四郎 1929 東京植物同好会の下総手賀沼採集行・植物研究雑誌 6 : 362-366 / 新千植誌 1975 : 373 / 千植誌 2003 : 536, 527.

【写真】1982.5 奈良県 大場達之。

(大場達之)



X キヨスミウツボ ハマウツボ科

消息不明・絶滅

Phacellanthus tubiflorus Siebold et Zucc.

【種の特性】寄生・無葉緑性の多年生草本。虫媒で重力散布。タマアジサイなどの根に寄生する。茎は叢生し5～6月に白い花を咲かせる。フサザクラ - タマアジサイ群集。[G]

【分布】北海道・本州・四国・九州。朝鮮、中国、サハリン、ロシア極東部。

【県内の状況】1882年に清澄山で採集された標本が東京大学に収蔵されている。これをもとに松村任三（1895）が和名をキヨスミウツボと命名した。湿った谷筋のタマアジサイの根元に生える。千葉県植物誌

（1958）に浅野貞夫による採集記録が見られるが、その後の記録を見ない。

【保護対策】生育環境を良好に維持することが望ましい。

【文献】津山尚 1947 東亜産キヨスミウツボ属に就いて。植物研究雑誌 21(712) : 131-136 / 中西 収・小林禎樹・黒崎史平 2006 キヨスミウツボの生活 .108pp. 兵庫県植物誌研究会。

【写真】1986 神奈川県 大場達之。

（大場達之）



X ヒメタヌキモ タヌキモ科

消息不明・絶滅

Utricularia minor L.

準絶滅危惧 (NT)

【種の特性】食虫性の多年生草本。葉は羽状で互生。花は淡黄色であるが開花は稀である。虫媒で水散布。タヌキモに似て繊細。貧栄養の酸性の浅い水域に生える。コタヌキモ - ヒメタヌキモ群集。[HH]

【分布】北海道・本州・四国・九州。ユーラシアと北米に広く分布。

【県内の状況】長生村八積、成東町島（1951）、銚子市、手賀沼（三木茂 1926 大阪市立自然史博物館標本）などから知られているが、近年の記録は見られない。絶滅したものと推定される。

【保護対策】生育環境を良好に維持することが望ましい。特に水質の維持が大切である。

【文献】Komiya, S. & C. Shibata 1979 Distribution of the Lentibulariaceae in Japan. Bull. Nippon Dent. Univ. Gen. Educ. 9 : 192-195 / 千植誌 2003 : 545, 549.

【写真】2004.7 宮城県 大場達之。

（大場達之）



X オクモジハグマ キク科

消息不明・絶滅

Ainsliaea acerifolia Sch.Bip. var. *subapoda* Nakai

【種の特性】多年生草本。葉は単葉で掌状に切れ込み、互生であるが輪生状に茎の中部に集まりつく、葉はやや扁平な円形で掌状に切れる。花は9～10月に咲き、茎の先に穂状に付き、総苞は長さ12～15mmで、総苞片は5列、筒状花は白色。虫媒で風散布。[G] ブナ帯の中性～やや乾いた夏緑林あるいはモミ林などに生える。ブナ群綱。

【分布】本州。

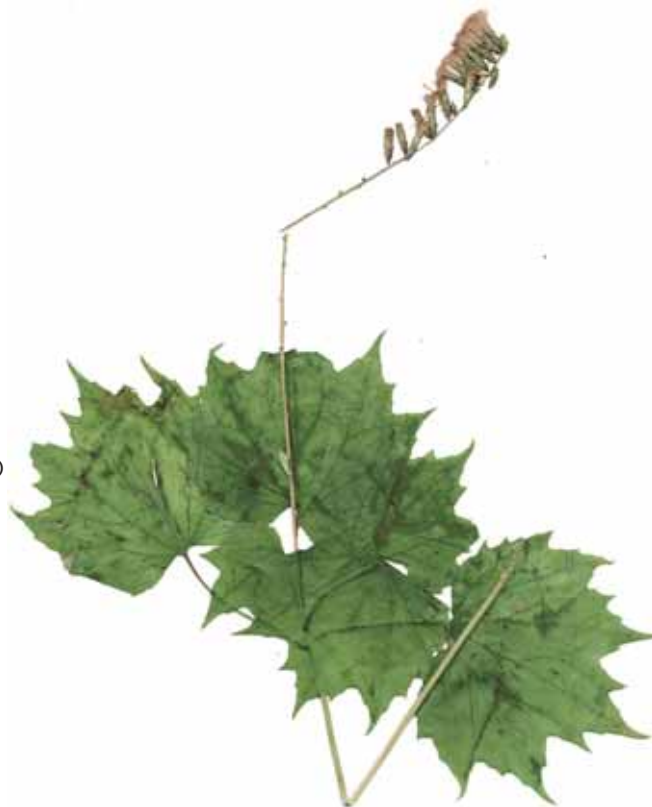
【県内の状況】千葉市、東金市と大多喜町筒森官林での採集記録がある。

【保護対策】

【文献】千生誌 1958 : 309
/ 千植誌 2003 : 590, 572.

【写真】1991.8.26 福島県
千葉県立中央博物館所蔵標本。

(大場達之)



X タカサゴソウ キク科

消息不明・絶滅

Ixeris chinensis (Thunb.) Nakai subsp. *strigosa* (H.Lév. et Vaniot) Kitamura

絶滅危惧II類 (VU)

【種の特性】多年生草本。葉は単葉で互生し白緑色、へら状倒披針形であらう欠刻または歯牙がある。花は4～5月で、高さ20～40cmの茎を複数直立させて、上部に花を群がりつける。頭花は舌状花を20個内外つけ淡紫色、虫媒で風散布。草原に生える。ススキ群綱。[H]

【分布】本州・四国・九州。朝鮮。

【県内の状況】清澄山、君津市香木原、鹿野山、八街市などで採集されているが1951年の記録を最後に消息不明。

【保護対策】千葉県における生育環境が明らかでない。近接他県での生育環境を調べる必要がある。

【文献】千植誌 2003 : 648, 640.

【写真】1951.5.4 清澄山 千葉県立中央博物館所蔵標本。

(大場達之)



X ミコシギク キク科

消息不明・絶滅

Leucanthemella linearis (Matsum.) Tzvelev

絶滅危惧 II 類 (VU)

【種の特性】多年生草本。茎は直立。葉は単葉で互生し、羽状にやや深く裂ける。舌状花は白色。虫媒で水散布。地下茎を引いて繁殖する。種子はできないといわれる。湿原に生える。[HH]

【分布】本州（茨城県以西）・九州。朝鮮、中国。

【県内の状況】松村任三が下総産の標本（K. Okada 1895 年 10 月採集 東京大学）に基づいて命名した。当時の下総は茨城県南部の一部が含まれていたが、千葉県が基準標本産地である可能性が高い、その後県内からは採集されていない。下総のどこで採集

されたかは明らかではないが、その頃の採集家の行動からすると、現市川市の真間あるいは国府台付近であろうと推定される。

【保護対策】最初で最後の記録から既に 100 年を経過しているが、詳細な原産地の究明が必要である。

【文献】松村任三 1899 植物学雑誌 13 : 83 / 北村四郎 1967 日本の野生菊の分布に関する報告。植物分類地理 22(4-6) : 109-137 / 千植誌 2003 : 616, 611.

【写真】1979.10.8 岐阜県 千葉県立中央博物館所蔵標本。

（大場達之）



X フクオウソウ キク科

消息不明・絶滅

Prenanthes acerifolia (Maxim.) Matsum.

【種の特性】多年生草本。葉は単葉で互生。根生葉は心形～卵状心形で粗い欠刻がある。茎は高さ 40 から 60cm で花序は円錐状、頭花は下垂して咲き、青紫色を帯びた白色。虫媒で風散布。主としてブナ帯のブナ林あるいはミズナラ林の、斜面の動きやすい林床の土壌あるいは日陰の林縁に生え、千葉県のは寒冷期の遺存的なものか、林木の苗などに付着して移入されたものであろう。[G]

【分布】本州・四国・九州。

【県内の状況】原寛が 1936 年に一宮で記録しているほか、市原市梅ヶ瀬溪谷にもあるというが証拠標本は確認されていない。

【保護対策】

【文献】千葉県自然環境保全地域等変遷調査報告書 1985 / 千植誌 2003 : 646, 637.

【写真】1990.10.14 茨城県 千葉県立中央博物館所蔵標本。

（大場達之）



X ミヤコアザミ キク科

消息不明・絶滅

Saussurea maximowiczii Herder

【種の特性】大形の多年生草本。茎は直立し、上部で枝を分かち。高さ 60 ~ 150cm。葉は単葉で羽状に裂け互生。花は秋に咲き紅紫色。虫媒で風散布。ススキ群綱。[H]

【分布】本州・九州。朝鮮、中国、ウスリー。

【県内の状況】草刈りが定期的に行われるススキ草原に生えるが、よく管理された草地の減少と共に、最近では極めて少なくなり 1958 年の八積での採集記録を最後に消息不明になっている。採集記録のあるのは嶺岡山、八街市木原、東金市依古島と長生村八積である。遺存牧野要素。

【保護対策】刈り取りにより管理された半自然の草地を保全することが望ましい。

【文献】千植誌 2003 : 574, 567.

【写真】1933.9.14 山武市
千葉県立中央博物館所蔵
標本.

(大場達之)



X ヒメヒゴタイ キク科

消息不明・絶滅

Saussurea pulchella Fisch. ex DC.

絶滅危惧 II 類 (VU)

【種の特性】2年生~多年生草本。高さ 80cm 以上になる。葉は単葉で羽状に裂け互生。花は8~9月に咲き紅紫色。虫媒で風散布。ススキ草原に生える。ススキ群綱。

[Th ~ H]

【分布】北海道・本州・四国・九州。朝鮮、中国、サハリン、アムール、ウスリー。

【県内の状況】久内清孝が 1952 年に津田沼付近の大和田（八千代市？）で記録したほか、清澄山の記録がある。

【保護対策】刈り取りにより管理された半自然の草地を保全することが望ましい。

【文献】久内清孝 1952 植物研究雑誌 27 : 336 / 千植誌 2003 : 574, 566.

【写真】1955.10.16 神奈川県 神奈川県立生命の星・地球博物館所蔵標本.

(大場達之)



× マルバオモダカ オモダカ科

消息不明・絶滅

Caldesia parnassifolia (Bassi ex L.) Parl.

絶滅危惧Ⅱ類 (VU)

【種の特性】浮葉～挺水性の多年生草本。葉は単葉で根生。虫媒で水散布。池沼に生える。ヨシ群綱。[Th]

【分布】北海道・本州・四国・九州。中国、インド、オーストラリア、マダガスカル。

【県内の状況】茂原市～長生村周辺で採集された標本が多く残され、千葉市でも記録されているが、湿地の開発などにより近年は記録がない。東京大学には1880年に長生郡旧本郷村で採集された標本が残っている。

【保護対策】生育環境を良好に維持することが望ましい。特に水質の維持が大切である。

【文献】新千植誌 1975：477 / 角野康郎
1994 日本水草図鑑：17 / 千植誌 2003
643,657.

【写真】1968.8.23 愛知県 千葉県立中央博物館所蔵標本。



(谷城勝弘)



× コバノヒルムシロ ヒルムシロ科

消息不明・絶滅

Potamogeton cristatus Regel et Maack

絶滅危惧Ⅱ類 (VU)

【種の特性】小型で浮葉性の多年生草本。葉は互生～対生、沈水葉は線形で長さ3-5cm、幅0.3-1.0mm。風媒で水散布。ホソバミズヒキモに似るが果実の嘴（花柱）が長く、また背稜に著しい突起がある。湖沼性。ヒルムシロ群団。[HH]

【分布】本州・九州。朝鮮、台湾、中国、ウスリー。

【県内の状況】銚子市、野田市、勝浦市、大多喜町などからの分布が知られる。近似の種類と混同されていることも考えられる。証拠標本の確認できない記録もあるので、今後検討を要する種類である。現在生育は確認されていない。

【保護対策】旧生育地には埋土種子として残っている可能性があるため、生育可能な環境を保全し、回復を試みるのが望ましい。

【文献】新千植誌 1975：478 / 伊藤至
1988 水草三題千生誌 37(1・2)：11-14. / 千植誌 2003 664,660.

【写真】1940.6.6 旧総元村(大多喜町)
千葉県立中央博物館所蔵標本。



(谷城勝弘)



X ユウスゲ ユリ科

消息不明・絶滅

Hemerocallis vespertina H.Hara

【種の特性】多年生草本。葉は単葉で互生。花は夕刻に咲き出し、レモン黄色で、香りがある。虫媒で重力散布。自然なススキ草原などに生える。低地遺存ブナ帯要素。ススキ群綱。[G]

【分布】本州・四国・九州。

【県内の状況】浅野貞夫（1971）が館山市の道路法面の草地から報告したが、1997年の採集地の確認において発見されなかった。絶滅したものと考えられる。



【保護対策】回復は難しい。日本のブナ帯には各地に分布し、シイ・カシ帯にも点々と知られているが、それらは場所ごとに草丈、花の色、形、香りなどに差異が見られ、房総半島の物がどのような地域変異型であったかは明らかでない。たとえ近くとはいえ、別の自生地から種子などを導入して復活を測るのは慎重な検討を要する。

【文献】浅野貞夫 1971 房総半島にユウスゲが自生する。植物採集ニュース 58 : 94 / 千植誌 2003 : 685, 679.

【写真】1990.8. 京都府 大場達之。

（大場達之）



X ヒメシャガ アヤメ科

消息不明・絶滅

Iris gracilipes A.Gray

準絶滅危惧 (NT)

【種の特性】多年生草本。葉は単葉で互生。5月頃に紫色の花を上向きに開く。虫媒で重力散布。主としてブナ帯の乾いた尾根筋のミズナラ林や半日陰の岩場などに生える。低地遺存ブナ帯要素。[H]

【分布】本州（近畿以東）・四国・九州。

【県内の状況】山武町から1929年と1944年に採集されている。市原市からも報告されているが自生かどうか疑わしい。

【文献】千葉県自然環境保全学術調査報告書 1981 / 千植誌 2003 : 703, 694.



【写真】1975.5. 長野県 大場達之。

（大場達之）



× ヤマトホシクサ ホシクサ科

消息不明・絶滅

Eriocaulon japonicum Koernicke

絶滅危惧Ⅱ類 (VU)

【種の特性】一年生草本。葉は単葉で束生。虫媒で水散布。頭花は帯黒色。総苞片は被針形、頭花より長い同長。葉の下部幅 2 ~ 3mm。頭花は多花。花床、花弁及び萼は無毛。種子にかぎ毛がない。湿地性（沼畔）。ミミカキグサ - イヌノハナヒゲ群目。[Th]

【分布】本州（上総、近江）

【県内の状況】佐竹義輔（1939）に三浦による上総茂原、富樫誠による八積での採集記録が記されている。今日、茂原市～長生村八積では宅地、工場用地の造成な

ごによる土地の改変が著しく、本種の生育可能な環境が急速に失われつつある。この地域での継続的な調査においても再発見されていない。

【保護対策】旧生育地には埋土種子として残っている可能性があり、また未調査地に生育している可能性も考えられるので生育可能な環境を保全することが望ましい。

【文献】佐竹義輔 1939 植物研究雑誌 15 : 628 / 奥山春季 1947 植物採集覚書。植物研究雑誌 21(7-12) : 54 / 千植誌 1958 : 407 / 新千植誌 1975 : 453 / 千植誌 2003 711,700.

【写真】1960.10.16 茂原市 国立科学博物館所蔵標本。

（谷城勝弘）



× ヒナザサ イネ科

消息不明・絶滅

Coelachne japonica Hack.

【種の特性】小型の一年生草本。稈は地上をはい節から発根し、葉は単葉で互生。風媒で水散布。花期は 8 ~ 10 月。向陽の湿地に生育し、西日本では干上がった溜池の底に生える。

【分布】本州・四国・九州。日本特産。向陽の湿地に生育するが全国的にもまれ。

【県内の状況】成東食虫植物群落保護地での 1927 年 10 月 5 日（與世里盛春採集 CBM-BS-26433）の標本があるが、同地での近年の確認はされていない。ほかに千植誌（1958）に記載されている茂原市～長生村八積にかけての湿地の記録を最後に近年の分布確認はされていない。小型で目立たなく、またハイチゴザサと間違えられている可能性もある。絶滅が懸念される。

【保護対策】生育地の酸性貧栄養湿地・池の環境を良好に維持することが望ましい。

【文献】千植誌 1958 / 新千植誌 1975 : 466 .

【写真】1927.10.05 旧成東町 千葉県立中央博物館所蔵標本 CBM-BS-26433）.

（木村陽子）



X ヒンジモ ウキクサ科

消息不明・絶滅

Lemna trisulca L var. *sagittata* Makino

絶滅危惧 II 類 (VU)

【種の特性】多年生草本。葉は退化し茎が葉状。水媒で水散布。貧養な静水の表面あるいは表面近くに浮遊する。ヒンジモ群団。[HH]

【分布】北海道・本州・四国。母種のタイリクヒンジモはユーラシアの温帯に広く分布する。

【県内の状況】神崎町（若名東一 1935 年 8 月 4 日 CBM-BS-6333）及び鴨川市（浅野貞夫 CBM-BS-182470）の標本があるほか、新版千葉県植物誌では山武町日向、成東町などの記録があるが、近年は全く記録されていない。絶滅した可能性が高い。

【保護対策】生息地が発見されたら、水質を良好に保つ。

【文献】千植誌 2003 : 812, 800.

【写真】2001 兵庫県産栽培 谷城勝弘・
(大場達之)



X ミタケスゲ カヤツリグサ科

消息不明・絶滅

Carex michauxiana Boeck. subsp. *asiatica* Hultén

【種の特性】多年生草本。根茎は短く、茎は叢生する。葉は少数で幅 3 ~ 5 mm。雌性の側小穂は卵球形で、放射状に開出した果胞をつける。果胞は長さ 1 ~ 1.2 cm で狭い披針形、嘴は長い。本来、亜高山帯の泥炭湿地に生える。[HH]

【分布】北海道・本州（中～北部）千島、カムチャツカ。

【県内の状況】本県には記録がなかったが、県立中央博物館による長生高校旧蔵の植物標本群の調査により、長生村八穂における採集標本の存在が確かめられた（天野・斎木：2006）。長生村では本種の他にヤチカワズスゲなどの寒冷地を生育の本

拠とするスゲ類も記録されている。これらはいずれも低地遺存高山要素の種類と判断されるが、近年の土地改変や気候の温暖化により衰退し消滅したものと考えられる。

【保護対策】旧生育地には埋土種子が残っている可能性があるため、生育可能な環境を保全し、回復を試みるのが望ましい。

【文献】天野誠・斎木健一 2006 アマチュア研究家の採集標本に基づく過去の植物相の復元 - 長生高校旧蔵植物標本群の解析・千葉生物誌 56(2): 49-55.

【写真】1966.7.10 長生村 長生高校生物部 千葉県立中央博物館所蔵標本。
(谷城勝弘)



× ヤチカワズスゲ カヤツリグサ科

消息不明・絶滅

Carex omiana Franch. et Sav.

【種の特性】多年生草本。葉は単葉で互生。風媒で水散布。匍枝はなく、3-5個の小穂をまばらにつける。果胞は開出し、はじめは緑色であるが、熟すと栗褐色になる。上方はしだいに長い嘴となる。湿地性。[HH]

【分布】北海道・本州・四国・九州、南千島。

【県内の状況】千葉県植物誌（1958）に伊藤至が茂原で採集した記録がある。埋め立てなどによって激減したが、茂原市の東部域には、現在でも湿地や湿地林が点在しており、ヤチカワズスゲの生育可能な環境は多少なりとも残っている。このような場所について精査が続けられているが、近年は発見されていない。

【保護対策】旧生育地には埋土種子として残っている可能性があるので、生育可能な環境を保全し、回復を試みる事が望ましい。

【文献】千植誌 1958：412 / 新千植誌 1975：457. / 千植誌 2003：829,804.

【写真】2000.6.10 群馬県 谷城勝弘.
(谷城勝弘)



× ツクシオオガヤツリ カヤツリグサ科

消息不明・絶滅

Cyperus ohwii Kük.

絶滅危惧 IB 類 (EN)

【種の特性】多年生草本。葉は単葉で互生。風媒で水散布。日本のカヤツリグサ属で最も大型。小穂はやや扁平、鱗片は鋭頭。果実は長楕円状で長さ 0.8-1.0 mm。ヨシ群綱。湿地性。[HH]

【分布】本州。日本では福岡県と茨城県に知られている。ただし茨城県の産地では消滅している。インドシナ半島、マレ - シア。

【県内の状況】1991年に野栄町内裏塚浜で確認された。九十九里海岸から 300m ほど内側の湿地で、秋の降雨時には 30-40cm の冠水が見られた。0.2ha 程度の場所にツクシオオガヤツリは 30 株前後が生育しており、高さ 1m 以上に成長した大型の株も見られた。その後、周囲からの造成が始まり、1995 年には埋め立てられて消滅した。

【保護対策】旧生育地とその周辺には埋土種子として残っている可能性があるため、旧生育地周辺の生育可能な環境を残し、一部に表土の攪乱を施すなど、湿所を造成し種の生育を促すことも考えられる。

【文献】谷城勝弘 1992 調査会目録：167 / 千植誌 2003：897,890.

【写真】1989.9.10 野栄町 谷城勝弘.
(谷城勝弘)



X ヤリテンツキ カヤツリグサ科

消息不明・絶滅

Fimbristylis ovata (Burm.f.) Kern

絶滅危惧II類 (VU)

【種の特性】多年生草本。葉は単葉で互生。風媒で重力散布。小穂は普通1個で、鱗片は2列につく。近海地に産する。ワダン・イソギク群綱。[H]

【分布】本州(千葉県以西)・四国・九州・琉球。朝鮮、中国、マリアナ群島。

【県内の状況】1904年に山蔦一海が安房岩井で採集したのがおそらく千葉県の最初の記録であろう(MAK-228579)。次いで牧野富太郎が旧長者町一本松で採集し、1906年8月14日には安房郡旧西条村御嶽山で採集された2枚の標本がある(石井幸一都立大牧野標本館 MAK-221488 / 今堀友市大阪市立自然史博物館)。いずれの

産地もその後再確認されておらず、現状は不明である。今後既知産地の海岸近くの原野や草地を詳細に調査することで再発見されるかもしれない。

【保護対策】海岸環境を良好に維持することが望ましい。

【文献】牧野富太郎 1905 やりてんつき最北ノ産地. 植物学雑誌 19: 244 / 堀内洋 1996 千葉県に未記録のヤリテンツキの標本を確認する. 千植誌資料 7: 41 / 堀内洋 1996 千葉県に未記録のヤリテンツキの標本を確認する - 訂正 -. 千植誌資料 9: 56 / 千植誌 2003: 861,851,862.

【写真】1999.9.24 神奈川県 谷城勝弘. (谷城勝弘)



X シオカゼテンツキ カヤツリグサ科

消息不明・絶滅

Fimbristylis spathacea Roth.

【種の特性】多年生草本。根茎は太く、枯死した葉を密生する。葉は硬く扁平。苞葉は1~3個で花序よりも著しく短い。小穂は少数ずつ集まり多数つく。果実は広倒卵形で暗褐色。海岸に生える。クジュウクリテンツキに比べて小穂は多数つき、茎は叢生して株をつくり基部は厚く硬い。

【分布】本州(関東地方以西)・四国・九州・琉球。台湾、中国、インド、マレーシア、オーストラリア。

【県内の状況】本県にはこれまで記録がなかったが、千葉県立中央博物館の標本を調査した結果、安房郡西岬村(1948.11.20, 浅野貞夫, CBM-BS-67577; 1953.12.18, CBM-BS-179168)の2点の標本が確認された。以降、現地での確認記録はない。

【保護対策】旧生育地には埋土種子として残っている可能性があるため、生育可能な環境を保全し、回復を試みることを望ましい。

【文献】県内での生育状況を記した文献はない。

【写真】1953.12.18 安房郡西岬村 千葉県立中央博物館所蔵標本. (大場達之 / 谷城勝弘 追補)



× クジュウクリテンツキ カヤツリグサ科

消息不明・絶滅

Fimbristylis spathacea Roth var. *depauperata* T.Koyama

【種の特性】小型の一年生草本。葉は単葉で互生。風媒で重力散布。本州西南部から熱帯にかけて散布するシオカゼテンツキの地方型。母種よりも小型で繊細。海岸性。[Th]

【分布】本州（上総、遠江）の海岸。一宮海岸を基準産地とする日本固有変種。

【県内の状況】小山鉄夫が上総一ノ宮で採集した標本（TNS-11120）に基づいて1955年に記載された。長生村の海岸に生じ、古くは御園勇（1939）の「千葉県産テンツキ属について」に記録がある。この中でシオカゼテンツキ *F. cymosa* var. *spathacea* として図示されているものは、小穂の数は少なく全体に繊細であり、植物体各部の計測結果等の記述をみると本変種と判断される。千葉県立中央博物館に旧長生郡一松村（1937, 御園勇, CBM-BS-160835）、旧長生郡八積村（1954.9.11, 浅野貞夫, CBM-BS-169479）の標本がある。1950年代以降の記録はない。

【保護対策】旧生育地には埋土種子として残っている可能性があるため、生育可能な環境を保全し、回復を試みるのが望ましい。

【文献】牧野富太郎 1911 しほかぜてんつきヲ上総一ノ宮海浜ニ得。植物学雑誌 25 : 229 / 御園勇 1939 千葉県産テンツキ属について. 22 頁 / 奥山春季 1947 植物採集覚書。植物研究雑誌 21(7-12) : 55 / 小山鉄夫 1955 九十九里テンツキ. 植物研究雑誌 30 : 129 / 小山鉄夫 1958 カヤツリグサ科について. 千植誌 : 172-194 / 千植誌 1958 : 416 / 新千植誌 1975 : 461 / 千植誌 2003 : 863,870 / 千植写真集 2005 : 345.

【写真】1954.9.11 旧八積村 千葉県立中央博物館所蔵標本。

（大場達之 / 谷城勝弘 追補）



× クロタマガヤツリ カヤツリグサ科

消息不明・絶滅

Fuirena ciliaris (L.) Rochbr.

【種の特性】一年生草本。葉は単葉で互生。風媒で水散布。全草毛が多く、鱗片黒緑色。湿地性。タウコギ群綱。[Th]

【分布】本州（千葉県以西）・四国・九州・琉球。台湾、中国、インド。

【県内の状況】旧山武郡豊成村（1929.09.25, 與世里盛春, CBM-BS-26278）、旧山武郡成東村（1931.10.20, 與世里盛春, CBM）、旧山武郡福岡村依古島（1950.10.08 篠崎秀次, CBM）、東金市依古島（1956.09.06, 1958.08.10, 若名東一, CBM-BS-7572）、東金市小沼田（1957.10.13, 若名東一, CBM-BS-252445）の標本が千葉県立中央博物館に収蔵されているが、現在は生育が確認されていない。

【保護対策】旧生育地には埋土種子として残っている可能性があるため、生育可能な環境を保全し、回復を試みるのが望ましい。

【文献】千植誌 1958 : 417 / 新千植誌 1975 : 462. / 千植誌 2003 : 860,851.

【写真】1956.9.16 東金市 千葉県立中央博物館所蔵標本。

（谷城勝弘）



X イガクサ カヤツリグサ科

消息不明・絶滅

Rhynchospora rubra Makino

【種の特性】多年生草本。葉は単葉で互生。風媒で水散布。花序は茎頂に密生する頭状花序。刺針は上向き粗造。湿地性。ミミカキグサ・イヌノハナヒゲ群目。湿地性。[H]

【分布】本州（千葉県以西）・本州・四国・九州・琉球。台湾、インドシナ半島、マレーシア、オーストラリア。

【県内の状況】茂原市（1952.08.23, 浅野貞夫, CBM-BS-85026）長生村八積（1957.09.29, 若名東一, CBM-BS-8667）での発見があるが、その後は生育が確認されていない。この地域にはかつて広大な湿地帯が存在していたが、現在は人口の集中で宅地の造成などによる土地の

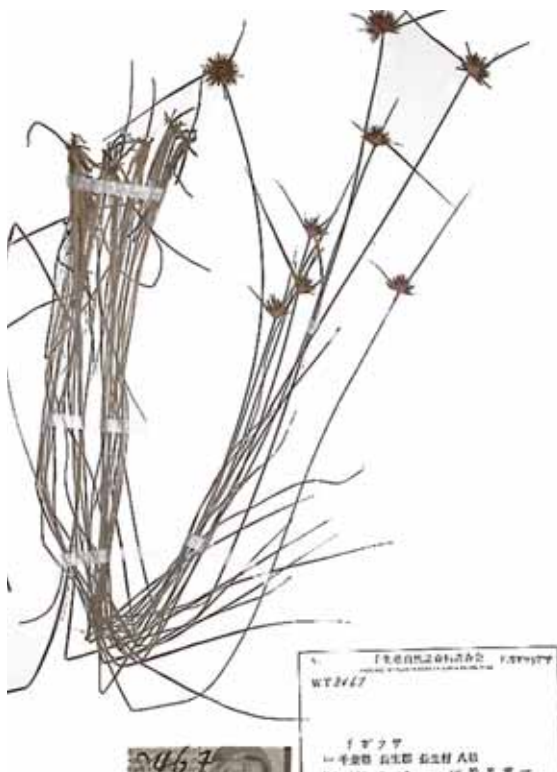
変化が顕著に進んでおり、本種をはじめとする湿地性種の生育環境は激減した。1980年代からの詳細な調査においても発見されていない。

【保護対策】旧生育地には埋土種子として残っている可能性が高いので、生育の可能性が高い湿地を保全し、場所によっては表土の攪乱などを施して植生発掘を試みることも考えられる。

【文献】千植誌 1958：417 / 新千植誌 1975：462. / 千植誌 2003：857,850.

【写真】1957.9.29 長生村 千葉県立中央博物館所蔵標本。

（谷城勝弘）



X コホタルイ カヤツリグサ科

消息不明・絶滅

Scirpus komarovii Roshev.

【種の特性】一年生草本。葉は単葉で互生。風媒で水散布。茎は円柱状、柱頭2。小穂は卵形、果実は1.2～1.5mmで両面形。[HH] 湿地性。

【分布】北海道・本州北部。朝鮮、中国、ウスリー。千葉県は分布の南限。

【県内の状況】1989年に成田市芦田の休耕田で3株の生育が確認されたが、放置による遷移の進行により数年後には消滅した。

【保護対策】旧生育地には埋土種子として残っている可能性があるため、生育可能な環境を保全し、回復を試みる事が望ましく、今後生育が確認された場所は適切に管理していくことが望ましい。

【文献】谷城勝弘 1990 調査会目録 129 / 谷城勝弘 1992 調査会目録：172. / 千植誌 2003：882,874.

【写真】1989.8.17 成田市 谷城勝弘。

（谷城勝弘）



X ケシングジャヤ カヤツリグサ科

消息不明・絶滅

Scleria rugosa R.Br.

【種の特性】多年生草本。葉は単葉で互生。風媒で水散布。全体が小さく、白色開出毛がある。ミミカキグサ - イヌノハナヒゲ群目。[H] 湿地性。

【分布】本州（千葉県以西）・本州・四国・九州・琉球。湿地にやや稀に生える。

【県内の分布】千葉県植物誌（1958）に茂原市での産地が記録されている。1980年代以降、茂原市～長生村での継続的な調査においても、本種の生育は確認されていない。この地域では近年宅地開発などによる改変が著しく進んでおり、旧生育地は失われたものと思われる。

【保護対策】旧生育地には埋土種子として残っている可能性があるので、生育可能な環境を保全し、回復を試みるのが望ましい。

【文献】千植誌 195 : 418 / 新千植誌 1975 : 463. / 千植誌 2003 : 849,857.

【写真】2001.8.10 愛知県 谷城勝弘 .

（谷城勝弘）



X イヨトンボ ラン科

消息不明・絶滅

Habenaria iyoensis Ohwi

絶滅危惧 IB 類 (EN)

【種の特性】多年生草本。葉は単葉で互生。虫媒で風散布。湿った粘土質の崖の草地などに生える。[G ~ H]

【分布】本州（千葉県以西）・四国・九州。

【県内の状況】市原市鶴舞及び館山市（いずれも榎本一郎 採集 1961, TI）に産することが知られていたが現在は消息不明である。

【保護対策】どこでも稀な植物で生育地点も少ない。観賞用の採取・販売・栽培をしないことが望ましい。

【文献】伊藤至 1962 千葉県植物誌・植物目録の追加・千葉生物誌 11(3) : 38 / 千植誌 2003 : 912, 902 .

【写真】1961.8.20 市原市 東京大学総合研究博物館所蔵標本 .

（大場達之）



X ササバラン ラン科

消息不明・絶滅

Liparis odorata (Willd.) Lindl.

絶滅危惧 IB 類 (EN)

【種の特性】多年生草本。葉は単葉で互生し、2枚で、花時には立っている。花は7～8月に咲き、紫褐色。明るい草地に群れて生える。虫媒で風散布。[H]

【分布】本州（千葉県以南）・本州・四国・九州・琉球。台湾、中国南部。千葉県は北限と考えられる。

【県内の状況】角田実が市原市鶴舞の療養所の斜面に生えているのを報告し、その後千葉生物学会の採集会でも確認されている。また1967年に成東町で採集された標本が国立科学博物館に存在する。しかしその後報告がなく、絶滅した可能性が高い。

【保護対策】かつての生育環境を良好に維持することが望ましい。

【文献】角田実 1956 千生誌 6(4): 94-96 及び 11(3): 38 / 正宗徹敬・里見信生 1972 北陸の植物 20(2): 30. / 千植誌 2003: 920,908.

【写真】1999.7.20 熊本県 永田芳男・(大場達之)



X ヤマトキシソウ ラン科

消息不明・絶滅

Pogonia minor Makino

【種の特性】小型の多年生草本。地下茎は白く細く地中を横走して分枝し、群れて生える。葉は単葉。花は6月に咲き淡紅色、やや上向きに咲く。虫媒で風散布。草原に生える。ススキ群綱。[G]

【分布】北海道・本州・四国・九州。朝鮮、中国。

【県内の状況】新版千葉県植物誌によれば柏、野田、成田、旭、東金、茂原などの記録があるが、詳細な地名が不明なので、分布図に打点できない。確かな記録は一宮（1954）と成田（1952）である。

【保護対策】かつての生育環境あるいは類似環境を良好に維持する。



【文献】新千植誌 1975: 445 / 千植誌 2003: 915, 905.

【写真】1986. 東京都 大場達之・(大場達之)



× カシノキラン ラン科

消息不明・絶滅

Saccolabium japonicum Makino

絶滅危惧Ⅱ類 (VU)

【種の特性】常緑多年生草本。葉は単葉で互生。花は淡黄色、虫媒で風散布。照葉樹林の樹幹に着生する。[E]

【分布】本州（中南部）・本州・四国・九州・琉球。台湾。

【県内の状況】清澄山に知られているが盗採のために激減した。最新の記録は清澄山での採集標本である（1958.09.21, 若名東一, CBM-BS-9600）。現在自生は確認されていないが、山草業界で千葉県産の山採り品が流通しているという情報がある。



【保護対策】かつての生育環境を良好に維持する。観賞用の採取・販売・栽培をしないことが望ましい。

【文献】倉田悟 1951 千葉県清澄山のラン科植物。演習林

8 : 75 / 正宗巖敬・里見信生 1968 北陸の植物 16(4) : 95 / 千植誌 1975 : 445. / 千植誌 2003 : 923,910.

【写真】1998. 宮崎県 大場達之.

(大場達之)

種子植物

EW 野生絶滅生物



イトクズモ 2008年9月20日 北海道涛沸湖 大場達之

【種の特性】多年生草本。葉は単葉で対生。虫媒で水散布。池底に根を下ろし、水中葉を多く対生し、水面にヒシに似た浮葉を広げ淡紅色の花をつける。果実には長い針状の付属物が4本ある。条件によっては花が咲かず閉鎖果のみをつけることが知られている。池・沼などの静水域に見られた。ヒルムシロ群団。[HH]

【分布】本州・四国・九州。朝鮮、中国、ブリモリア。

【県内の状況】主として利根川水系から多くの記録があり、特に印旛沼では普通であったという。また九十九里沿岸の蓮沼村からも記録があったが、近年は全く報告がない。水域環境の悪化によって絶滅した可能性が高い。埋土種子からの復活実験ではヒシモドキの発芽は確認されていない。

【保護対策】故笠井貞夫が生前に印旛沼から採集して栽培されていた個体が生き残っているのを、これを維持し、印旛沼の水質回復が果たされたときに復元を図る。

【文献】千植誌 2003 : 542, 531.

【写真】2002 兵庫県産東京都栽培 大場達之.

(大場達之)



【種の特性】沈水性の多年生草本。葉は単葉で互生～対生、線形。風媒で水散布。無柄で葉縁には鋸歯があり基部は托葉と合着して2～6mmの葉鞘となる。湖沼、ため池、水路等に生える。[HH] ヒルムシロ群網。

【分布】北海道・本州・四国・九州。アジア東部。

【県内の状況】印旛沼、手賀沼、佐倉市、柏市、市原市での記録がある。

【保護対策】2008年に印旛沼底土の撒き出し実験で発芽したので、これを維持し将来印旛沼に復元することを期待したい。

【文献】千植誌 1958 : 432 / 千植誌 2003 : 664, 660.

【写真】1964.9.6 印旛沼 千葉県立中央博物館 所蔵標本.

(谷城勝弘)



Potamogeton perfoliatus L.

【種の特性】沈水性の多年生草本。葉は単葉で互生～対生。風媒で水散布。無柄で、縁は波打ち、基部が茎を半周以上抱く。湖沼性（稀に河川）の沈水性多年生草本。ヒルムシロ群団。[HH]

【分布】北海道・本州・四国・九州。南米大陸を除き世界に広く分布。

【県内の状況】手賀沼、印旛沼、霞ヶ浦域で生育が確認されてきたが、現在は見られない。旧生育地近くに新たに造られた造成池などにはほかのヒルムシロ科の発生が時折見られるが、本種は出現しない。水質の汚濁に極めて敏感な種と思われる。

【保護対策】現在は、自然生育地を見いだすことはできないが、2008年に印旛沼底土の撒きだし実験で発芽したので、これを維持し将来印旛沼に復元することを期待したい。

【文献】千植誌 1958：432 / 大滝末男 1975 水生植物の分布と生態・新千植誌：216-232 / 角野康郎 1994 日本水草図鑑：37. / 千植誌 2003：663,669.

【写真】1933.8.25 佐原市
千葉県立中央博物館所蔵標本。

（谷城勝弘）

*Zannichellia palustris* L. var. *indica* (Cham.) Graebn.

絶滅危惧II類 (VU)

【種の特性】沈水性の繊細な多年生草本。葉は単葉で輪生、無柄、線形で長さ2.5～7cm、先端は鋭頭、鋸歯はない。水媒で水散布。海岸性（塩湿地やため池等）、イトクズモ群目。[HH]

【分布】北海道・本州・九州・琉球。朝鮮、台湾、中国、インド。

【県内の状況】九十九里浜平野域と旧白浜町の沿岸での生育記録があるが、近年における河口部の河川改修、護岸工事を始めとしてかつて多数見られた海岸域の湿地帯や沼が埋め立てられ、本種の生育地の多くが失われることになった。

【保護対策】現在は、生育地を見いだすことはできないが、2008年に印旛沼底土の撒き出し実験で発芽したので、これを維持し将来印旛沼に復元することを期待したい。

【文献】角野康郎 1994 日本水草図鑑：49. / 千植誌 2003：670,665.

【写真】2004 宮城県 大場達之。
（大場達之）



種子植物

A 最重要保護生物



フクジュソウ 1993年3月26日 富里市 大場達之

A ゴヨウマツ マツ科

最重要保護

Pinus parviflora Siebold et Zucc.

【種の特性】常緑高木。葉は針葉で輪生。風媒で風散布。変種のキタゴヨウは種子の翼が種子と同長以上で本州中部以北の日本海側と北海道に分布する。キタゴヨウと区別するためにヒメコマツと呼ばれることもある。[MM]

【分布】北海道・本州・四国・九州（太平洋側）

【県内の状況】かつては房総丘陵に広く分布していたと思われるが、近年急激に減少し、2001年には高宕山、元清澄山、清澄山周辺に75本が確認されるのみとなった。しかし、残っている本数の割には遺伝的多様性は維持されている。

【保護対策】房総丘陵のゴヨウマツは自然状態で集団を維持することが困難なほど衰退している。個体の多くが孤立しているため、自殖率が高く発芽率が低い。こうした問題を解決するため、人工交配が試みられている。また、現存個体の遺伝子を保存するため接ぎ木も試みられている。今後、個体群の衰退の程度によっては、人為的な補強ないしは消滅した生育地への再導入を検討する必要もあろう。

【文献】石原猛・佐倉詔夫・蒲谷肇 1983 清澄山におけるヒメコマツ・清澄 10: 1-10 / 房総のヒメコマツ研究グループ 2001 房総半島におけるヒメコマツ個体群の緊急調査. 44 pp. / 千植誌 2003: 78, 81.

【写真】1998 君津市 大場達之・（齊木健一）



A イヌブナ ブナ科

最重要保護

Fagus japonica Maxim.

【種の特性】夏緑高木。葉は単葉で互生。風媒で重力散布。主として太平洋側のブナ帯下部に見られ、モミ、ブナなど混交林をつくることが多い。低地遺存ブナ帯要素。ツガ群目。[MM]

【分布】本州（太平洋側）・四国・九州。

【県内の状況】清澄山系でわずかな個体が発見されている。

【保護対策】生育環境を良好に維持することが望ましい。

【文献】新千植誌 1975: 437 / 千植誌 2003: 110, 108.

【写真】2000 東京都 大場達之・（大場達之）



A ハルニレ ニレ科

最重要保護

Ulmus japonica (Rehd.) Sargent

【種の特性】夏緑高木。高さ 20 ~ 40 m。樹皮は縦に深い割れ目があり、鱗片状にはがれ落ちる。葉は倒卵形～楕円形で先端は短く尖り、表面はざらつく。葉脈は 10 ~ 20 対。花は 3 ~ 5 月に咲き、両性。果実は翼果で倒卵形～広楕円形。風媒で風散布。ブナ帯の肥沃で湿潤な林に生える。ブナ帯遺存要素 [HH]

【分布】北海道・本州・四国・九州。

【県内の状況】社寺に植えられるほか、自生と考えられる個体が千葉市などに見られる。保護対象は自生株のみ。

【保護対策】生育環境を良好に維持することが望ましい。

【文献】千植誌 2003 : 114, 119.

【写真】2001 千葉市 大場達之・
(大場達之)



最重要保護

A ヒナワチガイソウ ナデシコ科

最重要保護

Pseudostellaria heterantha (Maxim.) Pax var. *linearifolia* (Takeda) Nemoto

絶滅危惧 II 類 (VU)

【種の特性】高さ 7 ~ 12 cm の夏緑の小型多年生草本。明るい夏緑林に生える。肥大して紡錘形の根を 1 ~ 3 本つける。茎は単生、葉は対生。葉は狭楕円形から線形で、鋭頭、基部は楔形で、無柄、長さ 3 ~ 5 cm。葉は全縁で、葉脈と縁にわずかに毛がある。花は上部の葉腋に単生する。花は 5 数性で、萼片は披針形、鋭頭、長さ 2 ~ 2.5 mm。花弁は、狭倒卵形で全縁、白色で、長さ 5 ~ 6 mm。果実は蒴果で、卵形、上部から裂けて、種子を散布する。虫媒で重力散布。ワチガイソウに似て葉が細い。夏緑林に生える。[G] 低地遺存ブナ帯要素。

【分布】本州・四国。従来は茨城県、東京都から知られていたが、千葉県のほか高知県、京都府、静岡県、山梨県、埼玉県などにもヒナワチガイソウに相当するものがあるという (善養寺・天野 1995)。

【県内の状況】千葉市若葉区の雑木林で採集された (1993.05.01, 善養寺 聡彦, CBM-BS-77693)。

【保護対策】生育環境を良好に維持することが望ましい。

【文献】檜山庫三 1965 武蔵野の植物 45 / 善養寺 聡彦・天野誠 1995 千葉県新産のヒナワチガイソウの分布と生育環境・千葉県立中央博物館研究報告 3(2) : 165-166. / 千植誌 2003 : 156, 174.

【写真】2003. 千葉市 平田和弘・
(大場達之 / 天野 誠 追補)



A イトハコベ ナデシコ科

最重要保護

Stellaria filicaulis Makino

絶滅危惧Ⅱ類 (VU)

【種の特性】高さ 25 ~ 50 cm の夏緑の多年生草本。大きな河の氾濫原に生える。オギなどの茂みに他の草によりかかって生える。茎は無毛、ほぼ直立する。葉は線形で、鋭尖頭、対生する。ほぼ無柄。葉は全縁で、無毛。花は初夏に咲く。花は上部の葉腋に単生する。花柄は長く 5 cm に達することがある。花は 5 数性で、萼片は披針形で、鋭尖頭、白膜の縁取りがある。花弁は、倒披針形で深く 2 裂する。白色で、長さ約 6 mm。雄しべの数は 10 本ことが多い。果実は蒴果で、楕円球。虫媒で風散布。

ヨシ群綱。[H]

【分布】本州（東北、関東）。朝鮮、中国。

【県内の状況】利根川沿岸（我孫子市、成田市）および印旛沼畔（佐倉市）に古くから知られていたが近年は全く報告がない。絶滅した可能性が高い。現在多古光湿原に自生が知られている（小崎昭則私信）。

【保護対策】利根川上流の渡良瀬遊水池に自生が知られており、利根川流域の自然的な氾濫原の植生を保全することによって自然的な再定着が期待できる。

【文献】篠崎信四郎 1929 東京植物同好会の下総手賀沼採集行・植物研究雑誌 6 : 362-366 / 新千植誌 1975 : 427 では、7ヶ所の産地を挙げ、「普通」としている。 / 千植誌 2003 : 155,173.

【写真】1939. 佐倉市 / 千葉県立中央博物館所蔵標本

（大場達之 / 天野 誠 追補）



A フクジュソウ キンポウゲ科

最重要保護

Adonis ramosa Franch.

【種の特性】多年生草本。葉は羽状複葉で互生。虫媒で重力散布。しばしばカタクリと同一箇所に見られるが、カタクリよりも斜面上部のやや乾いたところに見られる。日本のフクジュソウは、萼片が花弁より長いイチゲフクジュソウ *Adonis amurensis* Regelet Radde とフクジュソウ *A. ramosa* Franch の 2 種があり、前者は北方あるいは日本海側の多雪地に多く、後者は太平洋側に多い傾向がある。千葉県のフクジュソウは近県のものとともに全体に小型で開花時期が遅く、フクジュソウの中の別の変種を構成する可能性がある。北向きの夏緑林の林床に生える。低地遺存ブナ帯要素。[G]

【分布】北海道・本州・四国・九州。



【県内の状況】千葉市に見られたものが有料道路建設で消滅したことが知られているが、県北部にはまだ自生地が残っている。

【保護対策】観賞用の採取・販売・栽培をしないことが望ましい。フクジュソウは園芸植物として出回っているが、千葉県自生のは前述のように、形態的に別の分類群として区別できるもので、従来の園芸品との識別は容易である。

【文献】岩瀬徹 1982 フクジュソウの自生地を確認する。千葉生物誌 31(1-2) : 27-28 / 谷城勝弘・村田威夫 1987 下総におけるフクジュソウ。千葉生物誌 36(2) : 70-71 / 大場達之 1995 千葉県のフクジュソウ。千植誌資料 1 : 3-4 / 千植誌 2003 : 197, 205.

【写真】1993.3.30 旧大栄町 谷城勝弘・

（大場達之 / 谷城勝弘 追補）



A キクザキイチゲ キンボウゲ科

最重要保護

Anemone pseudoaltaica H.Hara

【種の特性】多年生草本。葉は3出複葉で輪生。虫媒で重力散布。高さ15cmほど。地下に横に這う地下茎がある。花は早春に開花し、地上部は夏までに枯れる。低地遺存ブナ帯要素。[G]

【分布】北海道、本州。

【県内の状況】大栄町、山武市などの記録があるが稀である。近年の確認はない。

【保護対策】生育環境を良好に維持することが望ましい。観賞用の採取・販売・栽培をしないことが望ましい。

【文献】岩瀬徹・小滝一夫・篠崎秀次 1996 千葉市の種子植物。千葉市野生動植物の生息状況及び生態系調査報告書：275-378 / 千植誌 2003：188, 205。

【写真】1988 石川県大場達之。
(大場達之 / 谷城勝弘 追補)



最重要保護

A トウゴクサバノオ キンボウゲ科

最重要保護

Dichocarpum trachyspermum (Maxim.) W.T.Wang et Hisao

【種の特性】小型の多年生草本。葉は3出複葉で対生。虫媒で重力散布。湿った夏緑林の林床に生え、主としてブナ帯に見られる。ブナ群網。低地遺存ブナ帯要素。[H]

【分布】本州（東北南部）・四国・九州。

【県内の状況】かつて鹿野山で採集された標本が東京大学研究資料博物館にあり、藤平量郎は1994年に鹿野山で採集している。大場達之と木村陽子は1998年に鹿野山で再確認している。大場達之は清澄山で目撃したことがあるが1998年に確認に赴いたが発見できなかった。シカに

より被害され消滅した可能性がある。

【保護対策】生育地は極めて狭く失われる可能性が高い。生育地を保護することが望ましい。

【文献】新千植誌 1975：423 / 千植誌 2003：187, 195。

【写真】1998 君津市大場達之。
(大場達之 / 谷城勝弘 追補)



A ヒメキンポウゲ キンポウゲ科

最重要保護

Halerpestes kawakamii (Makino) Tamura

絶滅危惧Ⅱ類 (VU)

【種の特性】多年生草本。虫媒で水散布。高さ3～10cm。葉は単葉で互生、卵円形で先端に3個の切れ込みがある。地表に細長い匍枝を延ばして広がる。花は黄色で8月に咲き、果実は9～10月に熟す。海岸の潟湖の汽水域の湿った砂～砂泥地に生え、シバナ群集などの多年生草本群落の前縁、または多年生草本群落の間の裸地に生える。マリティマイ群綱。[H]

【分布】本州（千葉県から青森県にかけての海岸）。本州の固有種。

【県内の状況】一宮町から野栄町にかけての九十九里沿岸、一宮川、栗山川などの河口に分布。一宮川河口に産することは古くから知られ、新版千葉県植物誌には野栄町、成東町の緑海と鳴浜、九十九里町の豊海、大網白里町、蓮沼村、長生村、一宮町（東浪見）などの産地が挙げられており、かつては九十九里全域に広く分布していたことが知れる。千葉県立中央博物館には1947年、1956年、1957年、1958年に採集された標本がある。最新の記録としては1968年6月30日に吉川代之助により九十九里（地名は不明）で採集された標本がある。1996年9月の



旧一松村驚海岸における綿密な調査においても発見されず、また1996年9月～11月にかけての九十九里沿岸のフロラ調査においても、どこからも発見されなかった。河口の改修などによって環境が変化し、県内では絶滅したものと考えられる。潟湖の汽水域における潮間帯上部の限られた生育環境が、護岸などによって失われたことが直接の原因である。生育に好適な環境は潮間帯最上部の傾斜がごく緩やかで、しかも貧栄養で、砂と泥の混合比が適当であることを要し、そのような環境は面積的に限られている。日本のほかの産地でも減少が著しい。

【保護対策】旧生育地には埋土種子として残っている可能性があるので、生育可能な環境を保全し、再生を促すことも考えられる。

【文献】新千植誌 1975：424. / 千植誌 2003：197,205.

【写真】2004.6.26 宮城県 谷城勝弘
(大場達之 / 谷城勝弘 追補)



A オキナグサ キンポウゲ科

最重要保護

Pulsatilla cernua (Thunb.) Sprenger

絶滅危惧Ⅱ類 (VU)

【種の特性】多年生草本。葉は複3出複葉で互生。虫媒で風散布。乾き気味のシバ草地、砂礫の多い河原などに生える。ススキ群綱。[G]

【分布】本州・四国・九州。済州島。

【県内の状況】かつて放牧牧場の多い時代には広く見られ珍しいものではなかったが、半自然草地の管理が疎かになってから急速に減少し、現在確認できる産地は印西市など極めて限られている。目立つ草なので記録・採集されることが多く、標本も多く残っている。

【保護対策】人為的な刈り取りにより管理された半自然の草地を保全することが望ましい。



【文献】新千植誌 1975：423 / 引田園子 2000
オキナグサの自生地とその受難。千植資料
16：123. / 小野靖郎 2006 オキナグサとの
出会い 千植資料 16：124 / 千植誌 2003：
188,196.

【写真】印西市 大場達之
(大場達之 / 谷城勝弘 追補)



A コキツネノボタン キンボウゲ科

最重要保護

Ranunculus chinensis Bunge

絶滅危惧Ⅱ類 (VU)

【種の特長】中～やや大型の多年草または一年草。葉は互生し3出状に裂ける。

【分布】本州。朝鮮、中国、アムール、ウスリー、中央アジア。

【県内の状況】利根川水系の冠水草原にまれではなかったが、河川の氾濫原の開発・利用によって著しく少なくなっている。一方水鳥によって種子が散布されるので、県立中央博物館の舟田池の湿地のようなところに突然出現したりする。〔H〕

【保護対策】河川氾濫源を自然に保つ。

【文献】千植誌 2003 : 198,206.

【写真】2003 市川市 大場達之。
(大場達之 / 谷城勝弘 追補)



最重要保護

A ジュンサイ スイレン科

最重要保護

Brasenia schreberi J.F.Gmel.

【種の特長】浮葉性の多年生草本。葉は単葉で互生。虫媒で水散布。群生することが多い。池・沼に生える。若い芽や葉は寒天質に包まれており、これを食用にする。ジュンサイ - ヒツジグサ群集。〔HH〕

【分布】北海道・本州・四国・九州・琉球。アフリカを除く世界各地の熱帯から温帯に広く分布。

【県内の状況】市川のじゅんさい沼は古くから知られた産地で、そのほか茂原市・長生村八穂、千葉市、旧山武町日向、長板町などから記録があるが、

その多くでは絶滅している。

市川のじゅんさい沼は公園化され、ジュンサイが植えられているが、これは一度絶滅したが、東北産のものを導入して復活させたものである。

【保護対策】生育環境を良好に維持することが望ましい。特に水質の維持が大切である。

【文献】新千植誌 1975 : 425 / 天野誠 2007 千葉県立中央博自然報告 9(2): 36.

【写真】1999.07.01. 長柄町 大場達之。

(大場達之)



A オニバス スイレン科

最重要保護

Euryale ferox Salisb.

絶滅危惧Ⅱ類 (VU)

【種の特性】巨大な浮葉性の一年生草本。葉は単葉で互生、著しい刺がある。虫媒で水散布。ヒルムシロ群目。[HH]

【分布】本州（東北南部以南）・九州。台湾、中国、インド。

【県内の状況】1980年に一宮町で、1885年に市川市真間で採られた標本がある。また印旛沼、手賀沼とその周辺には多くの産地が知られているほか、九十九里浜平野でも一宮のほか九十九里町などからの記録がある。いずれの地域でも埋め立て、水質の悪化によってほとんど絶滅している。しかし埋土種子から回復する例があり、神崎町などでは保護された生育地が残っている。

【保護対策】旧生育地には埋土種子として残っている可能性があるため、生育可能な環境を保全し、回復を試みるのが望ましい。

【文献】斉藤吉永 1967 オニバス消滅の原因. 植物採集ニュース 31 : 51-52 / 斉藤吉永 1973 印旛沼周辺のオニバスについて. 千葉生物誌

22(1・2) :

35-36 /

新千植

誌 1975 :

425. / 千植

誌 2003 :

202,209.

【写真】

2002.9.20

神崎町 腰

野文男.

(大場達之)



A ナガバコウホネ スイレン科

最重要保護

Nuphar japonicum DC. var. *stenophyllum* Miki

【種の特性】コウホネに似ているが全体に小柄で、主に流水域に生え、流水の強い環境では抽水葉を出さないことが多い。葉身は長楕円形で長さ幅の2～3倍。花柄は細く、花は多く水面に咲く。三木茂(1937)がコウホネの変種として記録した。角野康郎はシモツケコウホネを独立種として記載したが、これはナガバコウホネと同じものと考えられる。

【分布】本州。神奈川県でも海老名市でナガバコウホネが発見されている。関東地方から東北にかけて、このような形の流水地型のコウホネが分布している。

【県内の状況】都川の坂月橋で最初発見されたが、上流の河川工事のため埋没してしまったので、千葉市みどり相談所の職員が若干の株を掘り出して水槽で栽培していたものが最初の発見で、その後佐原市の小野川に多数生育しているのが発見された。しかし小野川では観光船の定期航行のために水位を上げたために危機に瀕している。

【保護対策】特に小野川については、透明度が低いので水位を下げ、ナガバコウホネの光合成を助けることが重要である。

【文献】三木茂 1937 山城水草誌 82-84. / 角野康郎 2005 コウホネ属新変種シモツケコウホネの発見 :

産地の現状と保全の重要性. / Kadono, Y. 2006 Acta Phytotax. Geobot. (2006) 57, 2, 113-122 / 林浩二 千植誌 2003 : 202, 209.

【写真】2002.7 千葉市 大場達之

(大場達之)



A ヒツジグサ スイレン科

最重要保護

Nymphaea tetragona Georgi

【種の特長】浮葉性の多年生草本。葉は単葉で互生。虫媒で水散布。池・沼に生える。ヒツジグサ群団。[HH]

【分布】本州・四国・九州。北海道にはエゾノヒツジグサが分布。

【県内の状況】利根川水系と九十九里浜平野に多くの産地が知られていたが、いずれも水質の悪化、埋め立てなどで消滅しており、山間の池に生えるものだけが残っている。栽培のスイレン属のほかの種類が自生状態で見られるが、真のヒツジグサは稀である。

【保護対策】生育環境を良好に維持することが望ましい。特に水量の維持が大切である。

【文献】新千植誌 1975 : 425 / 千植誌 2003 : 202,209.

【写真】長野県 大場達之。

(大場達之)



最重要保護

A ゼニバサイシン ウマノスズクサ科

最重要保護

Heterotropa takaui (F.Maek.) F.Maek. var. *hisauchii* F.Maek.

【種の特長】常緑多年生草本。葉は単葉で互生。花は2～3月に咲く。萼筒内面には20本前後の隆起線がある。虫媒で虫散布。ヒメカンアオイに似るが葉の先端が切形であることが違う、この類の分類は再検討が必要である。クヌギ～コナラ二次林あるいはスギ植林などの林床に生える。

[G]

【分布】本州中部（千葉、長野、岐阜、愛知、三重）

【県内の状況】1986年に銚子市で発見された。現在銚子市猿田丘陵の数ヶ所で確認されている。いずれも極めて限られた範囲にのみ見られ、生育地の改変で個体数が減少している他、好事家の採集により開花個体が極端に減少している。

【保護対策】生育環境を良好に維持することが望ましい。観賞用の採取・販売・栽培をしない。

【文献】鶴岡繁・福田泰二 1988 銚子に新しく発見された2種の植物について。千葉生物誌 38(1) :

1-4 / 大場秀章・福田泰二・鶴岡繁 1989 千葉県で見出されたゼニバサイシン、特にその意外な分布と分類。植物研究雑誌 64(8) : 225-231 / 千植誌 2003 : 214, 211.

【写真】1998. 銚子市 腰野文男。

(大場達之)



A アゼオトギリ オトギリソウ科

最重要保護

Hypericum oliganthum Franch. et Sav.

絶滅危惧 IB 類 (EN)

【種の特性】多年生草本。茎は硬く、中部からよく分岐する。葉の基部はやや茎を抱き長楕円形で1.5～2.5cm、縁は黒点が連続し、内側は明点がある。花弁は黒点と明点がある。果実は丸みがあり、近縁種に比べて大型である。湿地性。[H]

【分布】本州（関東地方以西）、四国、九州。朝鮮。

【県内の状況】酒々井町根津で2～3個体が確認された（折目庸雄 1998.9.19, CBM-BS-172092）が、消滅した。2005年に横芝光町篠本の畦と農道の斜面で25個体が確認された。同所は除草剤を使用せず定期的な刈り取り管理が継続されている。県内記録は多いが、おおむね他種の誤認である。寺崎留吉（1933）の1204図（コオトギリ）は市川産の標本によって描かれたものであるが、これはアゼオトギリである。なお、奥山春季編（1977）：寺崎日本植物図譜p253のアゼオトギリの図（971）は寺崎（1933）のコオトギリに用いられた図と同じものである。

【保護対策】地権者に定期的な刈り取りを継続するよう連絡し、必要に応じて移植を行って管理育成することが望ましい。

【文献】寺崎留吉（1933）：日本植物図譜1204。／奥山春季編 1977 寺崎日本植物図譜：253／千植誌 2003：218,222。【写真】2008.8.10；2007.9.17 横芝光町篠本 谷城勝弘。（大場達之／谷城勝弘 追補）



A シロバナナガバノイシモチソウ モウセンゴケ科

最重要保護

Drosera indica L. form. *albiflora* Makino

【種の特性】食虫性の一年生草本。葉は単葉で互生。虫媒で風散布。花の赤いナガバノイシモチソウは伊勢湾沿岸などに見られるが、千葉県にあるものはすべてシロバナである。ホシクサ・コイヌノハナヒゲ群団。[Th]

【分布】本州、九州。花の赤いナガバノイシモチソウは伊勢湾沿岸などに見られるが、千葉県にあるものはすべてシロバナである。熱帯アジア、オーストラリア、アフリカ。

【県内の状況】明治13年（1880）8月に松村任三が長生郡長生村本郷で採集したものがシロバナナガバノイシモチソウの日本での初記録である（TIおよびTNS-48314）。その後1897年に一宮町東浪見で採集され、旧成東町、大網白里町、旧野栄町、茂原市、東金市などで記録されたが、

現在確実な産地は国指定天然記念物成東・東金食虫植物群落と長生村の2地点のみである。後者は工業団地の造成地に埋土種子集団から発生したもので、開発により失われる運命にある。また東京湾側では富津市で1965年に確認されているが、環境の変化により絶滅した。従って現在安定した生育地は成東町の天然記念物指定地のみである。かつての生育地には埋土種子が残されていると考えられ、生育地を再生させることは可能である。

【保護対策】湿地環境を良好に維持し、観賞用の採取・販売・栽培をしない。

【文献】小宮定志・柴田千晶 1994 総説ナガバノイシモチソウ、日本歯科大学紀要（一般教育系）23：125-155／千植誌 2003：220,223（ナガバノイシモチソウとして）。

【写真】1988. 成東町 谷城勝弘。

（大場達之）



A イシモチソウ モウセンゴケ科

最重要保護

Drosera peltata Thunberg

準絶滅危惧 (NT)

【種の特性】食虫性の多年生草本。地下に丸い塊茎があり、高さ 15 ~ 30cm の茎を 1 本出す。葉は単葉で互生し楕形で腺毛が多い。花は 6 ~ 7 月に咲き白色。虫媒で風散布。湿原や明るい林に生える。[H]

【分布】本州（関東以西）・四国・九州。中国。

【県内の状況】九十九里浜平野において古い砂丘間低地の湿地に見られ、特に茂原市～長生村八積、旧成東町が古くから知られた産地で、このほかに大網白里町からも採集されている。また利根川沿いの佐原市からも採集されているが、現在その湿地は消滅しイシモチソウは絶滅している。成東町の天然記念物指定地以外では生育環境が土地の造成などで消滅し激減している。茂原では湿原に生えるほか、アカマツの植林地にも多く見られた。

【保護対策】かつての生育地では剥土などの土地造成によって裸出した地表に、埋土種子から回復している例がある。一度消失した場所で再生をはかることも考えられる。観賞用の採取・販売・栽培をしないことが望ましい。

【文献】Komiya, S. & C. Shibata 1978
Distribution of the Droseraceae in Japan. Bull. Nippon Dental Univ. Gen. Edc. 7 : 3-39 / 千植誌 2003 : 220, 223.

【写真】2000.6.18
旧成東町 谷城勝弘

(大場達之)



最重要保護

A ミツバベンケイソウ ベンケイソウ科

最重要保護

Hylotelephium verticillatum (L.) H.Ohba

【種の特性】高さ 20 ~ 30 cm の夏緑の多年生草本。山地の湿った傾斜地に生える。根は前年の茎の下部から出る不定根で、太い。茎は斜上し、多肉で、無毛。葉は 3 輪生、まれに対生、長楕円形で、多肉、長さ約 5 cm、波状鋸歯があり、蒼緑色。花は集散花序に 10 ~ 20 個つく。花は 5 数性、萼は披針形、花弁は狭楕円形で、黄緑色。雄しべは 10 本で、葯は黄色。離心果皮は 5 つ。果実は蒴果で、熟すと上部から裂ける。葉は単葉で輪生。虫媒で重力散布。[H]

【分布】九州・四国・本州・北海道。

【県内の状況】以前から南房総市の富山で記録されていたが、鴨川市や南房総市南部にも新たな産地が発見された。千葉県分布は遺存的であり、生育地も小さいので保護が必要である。

【保護対策】生育環境を良好に維持することが望ましい。

【文献】千植誌 2003 : 253, 262.

【写真】1995. 南房総市 平田和弘

(天野 誠)



A ツメレンゲ ベンケイソウ科

最重要保護

Orostachys japonicus (Maxim.) Berger

準絶滅危惧 (NT)

【種の特性】通常、直径 5 cm 程度のロゼットを形成する常緑の一回稔性多年生草本。海岸や山地の岩場などに生える。実見した千葉県のは個体は際だって小さい。開花株は未見。以下は他産地の標本から記載である。太い主根から細い根を出す。葉は披針形で、先は刺状になる、らせん葉序。葉は全縁で、無毛、多肉。花は秋に咲く。花は密な総状花序につく。花柄は約 1 mm。花は 5 数性で、萼片は狭卵形で、鋭頭。花弁は、倒披針形。白色で、長さ約 4 mm。雄しべの数は 10 本、葯の色は黄色。離生心皮は 5 つ。果実は蒴果で、熟すと上部から裂ける。虫媒で、風散布。エゾオオバコ・ウシノケゲ

サ群網。[H]

【分布】本州。

【県内の状況】御宿町で記録されている。太平洋岸の分布の東限。

【保護対策】生育環境を良好に維持することが望ましい。観賞用の採取・販売・栽培をしないことが望ましい。

【写真】1987. 静岡県 菅原久夫.
(大場達之 / 天野 誠 追補)



A アズマツメクサ ベンケイソウ科

最重要保護

Tillaea aquatica L.

準絶滅危惧 (NT)

【種の特性】高さ 2 ~ 5 cm、弱々しい無毛の一年生草本。湿地や水田などに生える。根はひげ根で、茎から不定根を出す。茎は多肉で、下部で枝分かれする。葉は線形で全縁、鋭頭、対生する。ほぼ無柄。花は夏に咲く。花は上部の葉腋に単生する。花柄はない。花は 4 数性で、萼片は卵形で、長さ約 1 mm。花弁は、狭卵形で、白色で、長さ約 1.5 mm。雄しべは、4 本のことが多い。離生心皮は。果実は蒴果で、熟すと上部から裂ける。虫媒で水散布。ヒメミズニラーヒメコウガイゼキショウ群網。[Th]

【分布】本州・四国・九州。

【県内の状況】野田市、成田市、長生村などで記録されているが、近年は市川市で確認されたが、非常に少ない。水位が季節ごとに変動する非常に不安定な環境を好み、かつては水田など浅い水辺に生えていたが、絶滅が心配される。

【保護対策】生育環境を良好に維持することが望ましい。【文献】土屋守 1999 野田市の植物 (1) 千葉生物誌

50(1):17.
/ 千植
誌 2003:
244,252.

【写真】
2008.
06.26 市川
市 木村陽
子.

(天野誠)



A マツバニンジン アマ科

最重要保護

Linum stelleroides Planch.

絶滅危惧 IA 類 (CR)

【種の特性】直立性の細く硬い一年生草本。葉は単葉で互生。虫媒で風散布。ススキ草原あるいはその周辺の裸地などに生える。最近では帰化のキバナノマツバニンジンが多い。[Th]

【分布】北海道・本州・四国・九州。朝鮮、中国、ウスリー、アムール。

【県内の状況】かつて半自然のススキ草原が多かった頃には各地で記録されていたが、普通なものではなかった。近年の記録はなく、絶滅した可能性が高い。最も新しい記録は斉藤吉永（1984, 柏市十余二, CBM-

BS-82867）である。また吉川代之助は船橋市の埋め立て地で採集している（平塚市博物館蔵）が、これはマツバニンジン近似の外来品である可能性がある。

【保護対策】生育環境を良好に維持することが望ましい。

【文献】新千植誌 1975 : 404-405 / 千植誌 2003 : 316, 322.

【写真】1978. 柏市 千葉県立中央博物館所蔵標本。

（天野 誠）



最重要保護

A ハマボウ アオイ科

最重要保護

Hibiscus hamabo Siebold et Zucc.

【種の特性】夏緑低木で2 mほどになる。枝・葉・苞・萼などに星状毛が密生する。葉は偏円形～円形。長さ3～6 cmで5脈がある。花は7～8月に咲き、直径5 cmで黄色。虫媒で海流分布。(M)。

【分布】本州（千葉県以西）・四国・九州。済州島。

【県内の状況】館山市などで記録があったが、高潮で流されたりして安定的な生育環境は少ない。2008年に夷隅川河口で群落が発見されたほか、船橋市の埋め立て地でも漂着種子によると思われる個体が見つかっている。東京湾では多摩川河口でも漂着分布したと考えられるものが見られている。

【保護対策】生育地の開発を行わない。

【文献】千植誌 2003 : 369, 362, 370.

【写真】1982 三浦半島 大場達之。

（大場達之）



A ナガバノスミレサイシン スミレ科

最重要保護

Viola bisetii Maxim.

【種の特性】小型の多年生草本。地下に横走する太い地下茎がある。葉は単葉で根生。葉の先は鋭く尖り、基部は心形である。虫媒で虫散布。[G]

【分布】本州（関東以西）、四国。太平洋側に分布域をもつ。

【県内の状況】関東地方の低山地には普通であるが、県内では嶺岡山地のみに知られている。最も新しいデータは1955年であったが、2005年と2006年に嶺岡山地で採集された。千葉県のは全体小型で、花茎は葉よりも著しく高く伸びる。変種レベルで区別されるべきものと考えられる。

【保護対策】生育環境を良好に維持することが望ましい。

【文献】千植誌 2003：378, 385.



【写真】
鴨川市
福田洋.
(大場達之/谷城勝弘 追補)



A タチスミレ スミレ科

最重要保護

Viola raddeana Regel

絶滅危惧Ⅱ類 (VU)

【種の特性】多年生草本。葉は単葉で互生。虫媒で虫散布。大型のスミレで、高さ50cm以上になる。花は6月に咲く。河川氾濫源のオギ群落の中に生える。オギ・ヨシ群団。[H]

【分布】本州（関東、近畿）・九州。朝鮮、中国、アムール。

【県内の状況】利根川水系の各地に知られ、市川市国府台、手賀沼、我孫子市、佐原市などからの記録がある。1985年に我孫子市下根古屋での記録が最新のデータである。

【保護対策】河川氾濫源の自然植生を保全することが望ましい。

【文献】千植誌 2003：377, 382.

【写真】1998. 栃木県 大場達之.

(大場達之)



A マキノスミレ スミレ科

最重要保護

Viola violacea Makino var. *makinoi* (H.Boissieu) Hiyama ex F.Maek.

【種の特性】多年生草本。シハイスミレに似るが、ほぼ垂直に葉を立て、表面は濃緑色で光沢があり裏面の紫色は淡い。花はシハイスミレよりも濃い紅紫色。

【分布】本州（青森県～兵庫県）。

【県内の状況】葉身は日本海側の典型的なものに比べ、幅がやや広い。市原市南部で発見された（岡嘉弘 2002.4.6, CBM-BS183642）。生育地は標高約 70m の雑木林で、100 株ほどが群生する所と他に 2 箇所ほど少数の個体が生育している。

【保護対策】生育環境を良好に維持することが望ましい。

【文献】千植誌 2003：380, 384.

【写真】

2003.4.9 市原市 福田洋
（谷城勝弘）



最重要保護

A ヒメビシ ヒシ科

最重要保護

Trapa incisa Siebold et Zucc.

絶滅危惧Ⅱ類 (VU)

【種の特性】浮葉性の一年草。水中茎は節に羽状の根状の葉をつけ、茎の頂端に三角状菱形の葉を集めて浮かぶ。葉は光沢があり片側に 3～4 個の粗い鋸歯があり、幅 1～2cm。葉柄は上部がふくらみ浮き袋となる。花は 7～9 月に咲き、花弁は 3 個で白色～淡紅色で、径 6～8mm。果実は上縁に 2 本の棘があり、両側面にも下向きの棘がある。虫媒で水散布。(HH)。

【分布】北海道・本州・四国・九州。朝鮮、台湾、中国東北部、プリモリア。

【県内の状況】印旛沼、与田浦など利根川水系に多いが、鴨川市、旧丸山町、旧大多喜町などからも報告があるが、近年の記録は少ない。

【保護対策】池・沼を自然に保つ。

【文献】千植誌 20033：93,397。

【写真】2004 千葉市栽植 大場達之。
（大場達之）



A エキサイゼリ セリ科

最重要保護

Apodicarpum ikenoi Makino

準絶滅危惧 (NT)

【種の特性】小型の多年生草本。葉は羽状複葉で互生。虫媒で水散布。オギ群落の下層に生え、オギの茎葉の伸長する前に葉を展開し開花結実する春植物。夏には凋落して確認は困難である。果実は6月に熟す。新しく形成されたオギ群落にも進出することが認められる。ハナムグラ - オギ群落。日本の固有種、固有属。(1属1種)。
[G]

【分布】本州(関東地方、愛知県)

【県内の状況】江戸川沿岸の市川市国府台及び利根川の河原に見られ、生育環境はかつてよりも著しく狭められている。近年、栗山川の河原で大群落が確認されている。

【保護対策】河川敷のオギ群落を保全することが望ましい。場所によってはゴミの集中堆積が著しいのでオギの刈り取り、野焼きなどの管理が大切である。

【文献】千植誌 2003 : 424, 414.

【写真】2002.5. 横芝光町 谷城勝弘.
(大場達之)



A シムラニンジン セリ科

最重要保護

Pterygopleurum neurophyllum (Maxim.) Kitag.

絶滅危惧 II 類 (VU)

【種の特性】中形の多年生草本。茎は高さ 80 ~ 120cm。葉は3出複葉、羽状複葉で互生。虫媒で水散布。花は5 ~ 6月。果実は6 ~ 8月に熟す。ほかの草にやや寄りかかって直立し、茎の上部でやや枝分かれをする。長く持続した自然で構成種数の多いオギ群落にのみ見られ、新しく再生したオギ群落には見られない。大きな河川の下流域の氾濫原で年に数回は洪水の冠水するやや湿った草原。九州では山地の湿った草原に生える。ハナムグラ - オギ群落。[G]

【分布】本州(関東地方:利根川、荒川の下流域)・九州。朝鮮。

【県内の状況】最初、市川市国府台の江戸川の河原で採集されたが絶滅。1995年に佐原市の利根川の河原で発見された。極めて個体数が少なく、生育環境も狭いので絶滅する恐れが高い。

【保護対策】生育地への立ち入りを避けるとともに、草刈りにあたって十分留意する。採取をしないことが望ましい。

【文献】新千植誌 1975 : 391 / 千植誌 2003 : 426, 415.

【写真】1995. 佐原市 大場達之.
(大場達之)



A マルバノイチヤクソウ イチヤクソウ科

最重要保護

Pyrola nephrophylla (Andres) Andres

【種の特異】小形の常緑多年草。地下茎は地中を横走。根生葉はロゼット状に集まり、偏円形で長さ 1.5 ~ 3.5 cm、幅 1.5 ~ 3.5 cm。花は 5 ~ 7 月。花茎は高さ 10 ~ 15 cm で、白色の花を下向きに 4 ~ 7 花をつける。虫媒で風散布。(H)。主にブナ帯のやや乾いた夏緑林、モミ林の林床に生える。低地ブナ帯遺存要素と考えられる。

【分布】北海道・本州・四国・九州、南千島。

【県内の状況】八街市と茂原市から記録があり、最近では君津市で 1995 年 6 月 7 日に採集されている (CBM-BS-152903 平田和弘)。



【保護対策】生育環境である乾き気味の林を計画的に保全する。

【文献】千植誌 1958 : 44, pl.8:64
図 / 千植誌 2003 : 430, 418.

【写真】1984 長野県 大場達之 .
(大場達之)



最重要保護

A ヒカゲツツジ ツツジ科

最重要保護

Rhododendron keiskei Miq.

【種の特異】常緑低木。葉は単葉で互生。花は 4 ~ 5 月に咲き淡黄色。虫媒で風散布。シイ・カシ帯上部からブナ帯の日陰の岩場やモミ・ゴウマツ林の下などに生える。低地遺存ブナ帯要素。[N]

【分布】本州 (関東以西)・四国・九州。

【県内の状況】清澄山系、高宕山系と鋸山に分布する。園芸的採取が著しく、個体数が減少している。

【保護対策】生育環境を良好に維持する。観賞用の採取・販売・栽培をしない。

【文献】新千植誌 1975 : 388 / Yamazaki, T. 1996 A revision of the Genus *Rhododendron* in Japan, Taiwan, Korea and Sakhalin. p.14-18 / 千植誌 2003 : 432, 419.



【写真】
2001.4.8
君津市 福田洋 .
(大場達之)



A バイカツツジ ツツジ科

最重要保護

Rhododendron semibarbatum Maxim.

【種の特性】夏緑低木。葉は単葉で互生。虫媒で風散布。ブナ帯の乾いた夏緑林や夏緑・針葉混交林に生える。低地遺存ブナ帯要素。[N]

【分布】北海道（南部）・本州・四国・九州。

【県内の状況】清澄山・三石山付近で採集されているが少ない。

【保護対策】生育環境を良好に維持することが望ましい。観賞用の採取・販売・栽培をしない。

【文献】Yamazaki, T. 1996 A revision of the Genus *Rhododendron* in Japan, Taiwan, Korea and Sakhalin. p.29-31. / 千植誌 2003 : 432, 419.

【写真】1990.5 千葉市栽
大場達之・

（大場達之）



A ムラサキセンブリ リンドウ科

最重要保護

Swertia pseudochinensis H.Hara

準絶滅危惧 (NT)

【種の特性】一～二年生草本。葉は単葉で対生。虫媒で風散布。センブリに似て全体に紫色が強く、花も紫色、葉は細く尖り、茎や花柄に細突起がある（センブリは平滑）。[Th] やや開けた草地に生える。

【分布】本州・四国・九州。朝鮮、中国、アムール。

【県内の状況】市原市、八街市の標本のほか、八千代市、松戸市、習志野市、柏市、成東町からの記録もあるが普通には見られない。

【保護対策】生育地の草地環境を良好に維持することが望ましい。

【文献】新千植誌 1975 : 384 / 千植誌 2003 : 452, 453.

【写真】神奈川県 高橋秀男・

（大場達之）



A ヒメシロアサザ ミツガシワ科

最重要保護

Nymphoides coreana (H.Lév.) H.Hara

絶滅危惧Ⅱ類 (VU)

【種の特長】浮葉性の水生多年草。地中に多数の太い根を出して固着し、細い茎を水中に伸ばして節から根と、数枚の葉と、多数花を出す。葉は卵心形で長い柄があり、下面は紫色を帯びる。花は7～10月に咲き、花冠は白色で4または5裂し、径8mm、裂片の下部は縁が深く裂ける。閉鎖花は冬までつける。ガガブタに似るが葉は小形で、花冠の裂片の縁に毛状の裂片がある点が異なる。ガガブタの花は裂片の上面に毛がある。

【分布】本州・四国・九州。朝鮮、中国東北部、ブリモリア。

【県内の状況】2005年に大場富士夫により野田市の水田用水池で発見された。

【保護対策】生育地周辺での除草剤などの使用を控える。

【文献】大場富士夫 2006 野田市（旧関宿町）中戸



でヒメシロアサザ発見 千植資料 21: 165-167. 【写真】2005 野田市 大場富士夫 (大場達之)



A コカモメヅル ガガイモ科

最重要保護

Tylophora floribunda Miq.

【種の特長】多年生つる草本。葉は単葉で対生し卵心形。花は7～8月に咲き、紅紫色で花弁の上面に細かな毛が多い。虫媒で風散布。[H]

【分布】本州・四国・九州。朝鮮、中国、ウスリー。

【県内の状況】流山市と横芝光町から確認されている稀な植物である。

【保護対策】生育地の環境の改変を防ぐ。



【文献】千植誌 2003: 464, 455 / 木村陽子・蓮見和子 2004 千葉県で再発見されたコカモメヅル. 千資料 20: 149-150. 【写真】2004. 流山市 木村陽子. (大場達之)



A クサタチバナ ガガイモ科

最重要保護

Vincetoxicum acuminatum Decne.

準絶滅危惧 (NT)

【種の特性】中形の夏緑多年生草本。茎は直立し高さ 30 ~ 60cm。葉は対生し長楕円形 ~ 卵形。花は 6 月に咲き、白色で茎の頂端と上部の葉腋につき、小散状花序が集まる。果実は長い袋状。虫媒で風散。普通ブナ帯の夏緑林の林床あるいは、日あたりの好い草地にやや群れて生える。[H]

【分布】本州（関東以西）・四国・九州。サハリン 朝鮮 中国東北部、プリーモリア。

【県内の状況】千葉県では柏市戸張で 1967 年 5 月 26 日に斉藤吉永が採集しているが、現存するかどうか疑問である。千葉県産は寒冷期の遺存と考えられる。

【保護対策】詳細な現地調査が必要である。

【文献】千生誌 (1968) 17(1-2): 14
/ 千植誌 2003: 464, 455.

【写真】群馬県 大場達之。
(大場達之)



A サウルリソウ ムラサキ科

最重要保護

Ancystrocarya japonica Maxim.

【種の特性】高さ 30 ~ 50cm の夏緑の多年生草本。深い沢の湿った林の林縁に生える。根は肥大し、数本の茎を立てる。葉は茎の中部にまとまってつく。茎は斜上し、円筒形。葉は互生、長楕円形で、鋭頭で、基部は楔形、両面に荒い毛が生える。さそり状花序を頂生および上部の葉腋につける。花序は分枝しない。花冠は白色、径約 7 mm で、花筒は長い。果実は白くて光沢のある小堅果で、ウシの角形。虫媒で重力散布。ブナ群網。[H]

【分布】本州（関東以西）・四国・九州。

【県内の状況】君津市、市原市、大多喜町からの報告がある。

【保護対策】生育環境は沢沿いに限定され、個体数が極めて限られているので、生育地を良好に維持することが望ましい。

【文献】千植誌 2003: 472, 482 / 千植写真 2005: 353.

【写真】2000 . 大多喜町 平田和弘。
(大場達之 / 天野 誠 追補)



A ムラサキ ムラサキ科

最重要保護

Lithospermum erthrorhizon Siebold et Zucc.

絶滅危惧 IB 類 (EN)

【種の特長】高さ 40 ~ 90 cm の夏緑の多年生草本。乾燥した日当たりのよい草原に生育する。根は長倒円錐形で、乾かすと濃い紫色となり、台紙を紫色に染める。茎は円筒形で、剛毛が生える。葉は互生、長楕円形で、3 脈が目立ち、両面に荒い毛が生える。葉柄は短い。さそり状花序を頂生および上部の葉腋につける。花冠は白色、花筒は短い、径 3 ~ 4 mm で、喉部に黄色い鱗片がつく。果実は白くて光沢のある小堅果で、ほぼ球形、1 花に 4 つつく。虫媒で重力散布。ススキ群目。[H]

【県内の状況】ススキの刈り取り草原に多く見られたが、カヤ刈場が少なくなり、ススキ草地の管理が行われなくなってから激減している。

【分布】北海道・本州・四国・九州。朝鮮、中国、アムール、ウスリー。

【県内の状況】千葉県植物誌には多くの産地が記録されているが、最新の記録は川名興・伊藤哲夫 (1979) の高塚山での観察と考えられる。清澄山、長南町笠森、鴨川市等の標本が千葉県立中央博物館に所蔵されている？。

【保護対策】観賞用の採取・販売・栽培をしないことが望ましい。半自然草原を保全することが望ましい。

【文献】川名興・伊藤哲夫 1979 冬虫夏草 14. / 千植誌 2003 : 473, 484.

【写真】1986. 千葉市栽培福田洋.
(大場達之 / 天野 誠 追補)



最重要保護

A シラゲヒメジソ シソ科

最重要保護

Mosla hirta H.Hara

【種の特長】小～中形の一年生草本。茎は高さ 20 ~ 50 cm。葉は単葉で対生。ヒメジソに似ているが、1 茎と葉の表面に長い軟毛があり、鋸歯の数が多い傾向がある。虫媒で重力散布。[Th]

【分布】本州・九州。朝鮮南部、台湾。

【県内の状況】房総丘陵でわずかな採集例がある。館山の記録もあるが詳細な採集地は明らかでない。

【保護対策】半日陰の林縁に生えるものと考えられるが、その生育環境の条件を調査する必要がある。

【文献】千植誌 1958 : 333. / 新千植誌 1975 : 378 / 千植誌 2003 : 501, 497.

【写真】1962.09.17 君津市 千葉県立中央博物館所蔵標本.

(大場達之)



A ヤマホオズキ ナス科

最重要保護

Physalis chamaesarachoides Makino

絶滅危惧 IB 類 (EN)

【種の特徴】中形の夏緑多年生草本。茎は高さ 30 ~ 60 cm, 上部で横に枝を張り広がる。葉は互生。単葉で粗い歯牙がある。花は 8 ~ 10 月に咲き白色で下垂。果実は紅橙色に熟し、萼は果実時にホオズキ状にふくらみ、脈が翼状になって粗い歯牙がある。

[H] 虫媒で鳥散布。

【分布】本州（関東以西）四国・九州。

【県内の状況】房総丘陵に知られているが、極めて稀である。沢沿いの湿って肥沃な林床あるいは林縁に生える、

【保護対策】自生環境を湿った肥沃な環境を保つ。

【文献】久内清孝 1935 やまほおずき安房二産ス。植物研究雑誌 11 : 145-146. / 千植誌 2003 : 514,521.

【写真】君津市 大場達之。

(大場達之)



A オオアブノメ ゴマノハグサ科

最重要保護

Gratiola japonica Miq.

絶滅危惧 II 類 (VU)

【種の特徴】一年生草本。葉は単葉で対生。虫媒で水散布。高さ 10 ~ 20cm で葉腋に柄のない花を付ける。水田及び湿地に生える。[Th] アゼナ群団。

【分布】本州・九州。朝鮮、アムール、ウスリー。

【県内の状況】柏市、旧沼南町、市川市、佐倉市、多古町などで採集されているが極めて稀である。

【保護対策】水田に生えるが昔から普通な植物ではなく、限られたところのみ見られる。本種に限らず水田に生える一年草の保護は難しい。

【文献】千葉県自然環境保全学術調査報告書 1987. / 千植誌 2003 : 530,541.

【写真】2000.9.15 八千代市 谷城勝弘。

(大場達之)



A ハマウツボ ハマウツボ科

最重要保護

Orobanche coerulescens Steph.

絶滅危惧Ⅱ類 (VU)

【種の特性】寄生・無葉緑性の一年生草本。葉は単葉で互生。虫媒で重力散布。砂浜のカワラヨモギの根に寄生する。内陸の草地に生えるものをオカウツボ form. *nipponica* Kitam. といい、花序などの毛が少ないというのが中間形が多く区別は難しい。[Th]

【分布】北海道・本州・四国・九州・琉球。朝鮮、台湾、中国、アムール、ウスリー、シベリア、東ヨーロッパ。

【県内の状況】かつては東京湾沿岸から九十九里にかけての砂浜に多く見られたが、埋め立て、道路建設による砂浜の縮小、砂質の変化などによりハマヨモギが生えるような砂丘後背地の環境が失われ、激減している。現在確認できるのは館山市、銚子市などにすぎない。

【保護対策】砂浜の多年生植物群落の発達するゾーン、特にネコノシタ・ケカモノハシ群集より後背部の植生を保護することが望ましい。九十九里などでは道路建設、クロマツ植栽によってハマウツボの生育環境が失われている。自然の海岸植生を再現することが望ましい。

【文献】新千植誌 1975 : 371 . / 千植誌 2003 : 532,543.

【写真】1998.5.9 館山市 山井廣 .
(大場達之)



最重要保護

A アシタカマツムシソウ マツムシソウ科

最重要保護

Scabiosa japonica Miq. var. *lasiophylla* Sugimoto

【種の特性】二年～多年生草本。葉は単葉で対生。虫媒で風散布。マツムシソウに似て、葉は厚手で光沢があり、花時にも根生葉が残存し、花茎は低い。海崖の草地及び海に近い山の岩場や乾いた草地に生える。イソギク・ハチジョウススキ群集。[Th] 別名ソナレマツムシソウ。

【分布】本州（千葉、神奈川、静岡）

【県内の状況】銚子市犬吠埼から記載され、その後富津市、君津市、鋸山などからも見つかったが数は少ない。鹿野山から採集された標本もある。また従来マツムシソウあるいはソナレマツムシソウとされていた千葉県産のマツムシソウはすべてアシタカマツムシソウに当たる。須山ほかの研究でアシタカマツムシソウがこの類に対する名前として最も早いという。

【保護対策】生育環境を良好に維持することが望ましい。観賞用の採取・販売・栽培をしない。

【文献】中井猛之進 1944 植物研究雑誌 19 : 277 / 須山知香・杉野孝雄・植田邦彦 2008 アシタカマツムシソウ（マツムシソウ科）のレクトタイプ選定とソナレマツムシソウ. 植物研究雑誌 83: 246-252. / 須山知香 2007 2006 年度植物地理・分類学会奨励賞受賞記念論文：東アジア産マツムシソウ属（マツムシソウ科）の系統分類学的研究. 植物地理・分類研究, 54:105-126. / 千植誌 2003 : 551,560.

【写真】1995 . 鋸南町 大場達之 .
(大場達之)



A ソバナ キキョウ科

最重要保護

Adenophora remotiflora (Siebold et Zucc.) Miq.

【種の特性】多年生草本。葉は単葉で先は長く尖り、互生。上葉を除いて明らかな柄がある。花は杯状鐘形。虫媒で風散布。日陰の林縁に生える。低地遺存ブナ帯要素。[G]

【分布】本州・四国・九州。朝鮮、中国。

【県内の状況】県内の記録は非常に少ない。市原市石川（岡本三郎 1991.11.15, CBM-BS-44724）と市原市古敷谷（中村公一 1992.9.15, CBM-BS-46740）の標本がある。

【保護対策】生育地の環境を良好に維持することが望ましい。

【文献】千植誌 2003 : 561, 555.

【写真】2008.8.23 長野県谷城勝弘・（大場達之 / 谷城勝弘 追補）



A マルバノハマシャジン キキョウ科

最重要保護

Adenophora triphylla (Thunb. ex Murray) A. DC. var. *rotundifolia* (Hiyama) Ohba comb. nov.

【種の特性】多年生草本。葉は単葉で輪生、幅広く、厚手で光沢がある。虫媒で風散布。ツリガネニンジンに似て丈は低く、節間がつまり、ハマシャジンも同じようにツリガネニンジンの海岸型で千葉県の海岸に散布するが、ツリガネニンジンとの間は連続的である。ハマシャジンとマルバノハマシャジンは同所的に見られ、分類的に再検討が必要であるが、両者は別系統のものとも考えられる。マルバノハマシャジンは銚子が基準標本産地である。品種ではなく変種が適当であろう。海崖の草地に生える。イソギク - ハチジョウススキ群集。[H]

【分布】本州（千葉、神奈川の海岸）、伊豆諸島。神奈川県植物誌（1988）にハマシャジンとされている図はマルバノハマシャジンである。

【県内の状況】銚子市犬吠崎に産することが古くから知られているが、1995年に鋸山でも発見された。

【保護対策】保護の具体策を実施すると共に生育環境を良好に維持することが望ましい。観賞用の採取・販売・栽培をしないことが望ましい。

【文献】檜山庫三 1951 ボタニカルノート 2.12. マルバノハマシャジン・野草 17(139) : 2 / 檜山庫三 (1952) マルバノハマシャジン・植物研究雑誌 27 : 52 / 千植誌 2003 : 561, 555.

【写真】2003.8.19 銚子市犬吠崎 谷城勝弘・（大場達之 / 谷城勝弘 追補）



A ツルギキョウ キキョウ科

最重要保護

Campanumoea javanica Blume var. *japonica* (Maxim.) Makino

絶滅危惧Ⅱ類 (VU)

【種の特性】多年生つる草本。根は白色、多肉で分岐する。葉は単葉で対生と互生があり、裏面は粉白を帯びる。8月～11月にかけて葉腋に1個の花が咲く。花冠は柄があって下垂する。虫媒で風散布。[G]

【分布】本州（関東以西）・四国・九州。台湾、中国。

【県内の状況】市原市と睦沢町に分布が知られる。最近睦沢町妙楽寺の湿潤な斜面に2個体が生育することが再確認された。

【保護対策】生育地の環境を良好に維持し、個体を保護することが望ましい。

【文献】千植誌 2003 : 560, 555.

【写真】2005.10.1 & 04.10.2 睦沢町妙楽寺 谷城勝弘.
(谷城勝弘)



A キキョウ キキョウ科

最重要保護

Platycodon grandiflorum (Jacq.) A.DC.

絶滅危惧Ⅱ類 (VU)

【種の特性】多年生草本。葉は単葉で互生。虫媒で風散布。地下に肥厚した根がある。ススキ草原あるいはコナラ二次林などに生える。トダシバ - ススキ群団。[G]

【分布】北海道・本州・四国・九州、琉球（奄美大島）。朝鮮、中国、ウスリー。

【県内の状況】半自然的な草地の多かった時代には稀な植物ではなく、また花の目立つ植物なので採集者から注目され、ほとんど県内全域から多くの産地の報告がある。半自然的草地の減少と、観賞用としての選択的採取のために激減し、現在では極めて稀なものになっている。しかし1990年代でも市原市、酒々井町、芝山町、旧下総町、多古町などから記録されている。

【保護対策】観賞用の採取・販売・栽培をしないことが望ましい。昔ながらの定期的な刈り取りを行う草地環境を維持することが望ましい。市原市の例ではコナラ林の伐採跡地で観察されており、これは埋土種子からの回復である可能性が高い。千葉県は古くから牧野の多い所であり、種類の多いススキ草原は郷土の景観として重要な存在である。市原市におけるように埋土種子からの回復が最も適当な手段であろう。

【文献】千植誌 2003 : 561, 555.

【写真】1998. 市原市 平田和弘.
(大場達之 / 谷城勝弘 追補)



A モリアザミ キク科

最重要保護

Cirsium disacolepis (Maxim.) Matsum.

【種の特 性】中～大形の夏緑多年草。根は太くゴボウ状。茎は直立して高さ 50 ～ 100cm。根生葉は倒卵状楕円形で羽状に裂け、花時に枯れている。花は 9 ～ 10 月に上向きに咲く。筒状花は紅紫色。瘦果は黒紫色で先端のみ黄白色。虫媒で風散布。やや乾いた草原や明るい林に生える。(H).

【分布】本州・四国・九州。

【県内の状況】市原市と東金市での記録があるのみである。

【保護対策】自然的なススキ草原を保全する。市原市での産地は雑木林を伐採した跡地で、埋土種子から復活したと考えられる。

【文献】平田和宏 2000 モリアザミー若い植林地を探してみようー、千資料 15：107-108。 / 千植誌 2003：578, 569.

【写真】1998. 市原市 平田和弘.
(大場達之)



A イズハハコ キク科

最重要保護

Conyza japonica (Thunb.) Less.

絶滅危惧 II 類 (VU)

【種の特 性】一～二年生草本。葉は単葉で互生し白い蜘蛛毛があり、株は灰色に見える。虫媒で風散布。全体に柔らかな毛が多い。シイ・カシ帯の日当たりの良い乾いた崖などに生え、かつては林道の法面などにも見られた。[Th] 別 名ワタナ。

【分布】本州(関東以西)・四国・九州・琉球。台湾、中国、インド、マレーシア。

【県内の状況】我孫子市、長生村、千倉町、天津小湊町などから報告されているが、どこでも個体数は少なく、1979 年を最後として近年の報告はない。絶滅した可能性もある。遷移途中相に現れる傾向があるので保全は難しい。

【保護対策】生育環境を良好に維持することが望ましい。林道法面などの過度の牧草などによる緑化を控える。

【文献】新千植誌 1975：356 / 千植誌 2003：593, 583.

【写真】2004. 中国四川省 大場達之.
(大場達之)



A アズマギク キク科

最重要保護

Erigeron thunbergii A.Gray

【種の特長】多年生草本。葉は単葉で互生。虫媒で風散布。銚子の海岸に見られるアズマギクは花序の葉が幅広く基部は茎を抱き、内陸平地のものと異なった形をしている（仮にハマアズマギクと呼んでおく）。しかし本州中部のブナ帯の草地にも同じような形のアズマギクが見られるので今後の研究が必要である。

シバ草原に生える。シバスケ群目。[H]

【分布】本州（関東、中部以北）

【県内の状況】内陸の草地と海岸の岩場周辺に見られたが、半自然の草地の管理が放棄されたために激減している。県内における最も古い記録は1882年6月16日、小金原での標本で東京大学に収蔵されている（採集者不明）。

【保護対策】生育する草地を保全することが望ましい。観賞用の採取・販売・栽培をしないことが望ましい。

【文献】新千植誌 1975：357 / 千植誌 2003：596, 583。

【写真】2002. 銚子市 木村陽子・（大場達之）



最重要保護

A フジバカマ キク科

最重要保護

Eupatorium japonicum Thunb.

準絶滅危惧 (NT)

【種の特長】やや大形の多年生草本。葉は単葉で対生。虫媒で風散布。河川の氾濫原に生える。乾くとクマリンの香りがあり中国では蘭（蘭花）とならび蘭草とよばれ珍重されたという。ヨシ群網。[H] 園芸店などでフジバカマとして売られているものは葉がやや厚く光沢があって、茎上部の葉も3出複葉になっていて、花の色も濃く、河原に自生するフジバカマと異なっている。

【分布】本州（関東以西）・四国・九州。朝鮮，中国。かつては中国から渡来したものの逸出ではないかと考えられてきたが、近年では大きな河川の氾濫原に土着のものであるとされている。

【県内の状況】利根川流域の各地から報告がある。すなわち柏市布施、下総町倉水・小浮、八千代市佐山・上高野、野田市三堀、我孫子市寿町、市川市国府台など。この内、国府台の江戸川畔の産地は古くから知られているが、現在は堤防の斜面にわずかに残るだけであるという。また先に挙げた産地のいくつかは栽培品の逸出である可能性がある。

【保護対策】利根川上流域には自生が見られるので、千葉県でも自然的な氾濫原の植生を保全することによって自然的な再定着が期待できる。

【文献】村田源・小山博滋 1982 日本産ヒヨドリバナ属の再検討。植物分類地理 33：282-301 / 千植誌 2003：593, 582。

【写真】2003.9.5 野田市 大場達之・（大場達之）



A ハマサワヒヨドリ キク科

最重要保護

Eupatorium lindleyanum DC. var. *yasushii* Tuyama

絶滅危惧Ⅱ類 (VU)

【種の特性】多年生草本。葉は単葉で対生。虫媒で風散布。サワヒヨドリに似ているが節間がつまっていて、高さ 20cm ほどであるが、クロマツの影に生えたものでは 60cm ほどになることもある。茎に開出毛が密にあり、葉が広く丸みがあって毛が多い点がサワヒヨドリと異なる。サワヒヨドリが伊豆諸島とその対岸本土の地域に分化した変種で、学名は津山（1956）により三宅島の標本をもとに命名されたが、和名は銚子産の標本に基づいて檜山（1951）が命名したものである。海崖の草地に生えるが銚子では海岸近くの湿地周辺にも見られる。[H] イソギク

- ハチジョウススキ群集。

【分布】本州（千葉）・伊豆諸島。

【県内の状況】銚子市のほか、旧大原町、旧御宿町、館山市などからも採集されている。

【保護対策】生育環境を良好に維持することが望ましい。観賞用の採取・販売・栽培をしないことが望ましい。

【文献】檜山庫三 1951 ボタニカルノート 2.13. ハマサワヒヨドリ・野草 17(139) : 2 / 津山尚 1956 ヒヨドリバナの海岸型。植物研究雑誌 31 : 28 / 新千植誌 1975 : 358 / 千植誌 2003 : 592, 582.

【写真】2000.8.18 犬吠崎 谷城勝弘・（大場達之）



A オタカラコウ キク科

最重要保護

Ligularia fischeri (Ledeb.) Turcz.

【種の特性】多年生草本。葉は単葉で互生し、腎心形で長さ 30 cm 以上になり、縁には鋸歯がある。花茎は高さ 1 ~ 2m で上部に多数の花をつけるが、千葉県では高さ 1m 程度である。頭花は 5 ~ 9 個の黄色い舌状花がある。虫媒で風散布。低地遺存ブナ帯要素。湧水池周辺などの湿った草地に生える。

オオバセンキュウ・タネツケバナ属群団。[HH]

【分布】本州・四国・九州。中国、朝鮮、サハリン、アムール、ウスリー、東シベリア。

【県内の状況】海上町の湧水のある崖地周辺にわずかに見られる。

【保護対策】湧水池の環境を保護し、立ち入りを禁止する。採集を禁止する。

【文献】岩瀬徹 1975 海上町竜福寺の森観察会（246 例会）。千葉生物誌 25(1) : 49-51 / 千植誌 2003 : 601, 605.

【写真】2004. 海上町 大場達之・（大場達之）



A オオウミヒルモ トチカガミ科

最重要保護

Halophila major (Zoll.) Miq.

【種の特性】 小形の海底沈水性多年草。雌雄異株。根茎は白色で細く海底の砂泥土中を横走し、節間は 2.5 ~ 4cm。節には透明な鞘葉と対生状に 2 枚の葉をつける。葉は楕円形で 1.5 ~ 3cm の柄がある。葉脈の下部と葉柄上部はしばしば赤く染まる。側脈は 18 ~ 22 対で、先端が 2 列するものが多く混じる。葉縁の透明細胞は 1 列。千葉県産のものでは開花を観察していない。別名ウミコパン。牧野富太郎によって *Halophila euphlebia* Makino (1912) と命名されたが、Kuo, J. et al. (2006) によってインドネシア産の *H. major* (Zollinger) Miq. (1855) と同一種とされた。ほかのウミヒルモ類よりも潮通しのよい外海に面した砂質地に多く見られ潮下帯上部に生える。これまで館山のウミヒルモ類はウミヒルモ *H. ovalis* (R.Br.) Hook.f. とされていたが、ウミヒルモは琉球以南にのみ分布し、館山のものはオオウミヒルモとつぎに述べるヤマトウミヒルモの 2 種であることが明らかになった。

【分布】 本州（館山を北限として、和歌山）・四国・鹿児島・琉球（奄美大島）太平洋西南部に広く分布。

【県内の状況】 館山の沖ノ島にのみ記録されている。

【保護対策】 築堤などを行わず、現在の海況の環境を維持する。

【文献】 大場達之・宮田昌彦 2007 日本海草図譜 15,64-65.

【写真】 2004.5 館山市 大場達之（大場達之・宮田昌彦）



最重要保護

A ヤマトウミヒルモ トチカガミ科

最重要保護

Halophila nipponica J.Kuo

【種の特性】 オオウミヒルモにやや似るが植物体に赤く染まる部分が無く、葉は長楕円形で側脈は 8 ~ 12 対、側脈はほとんど 2 叉しない。また葉縁の透明細胞は細長く 3 列にならぶ。雌雄異株。花は 3 枚で透明質、雄しべは黄色。水媒で水散布。(HH)。Kuo, J. (2006) によって新種として記載された。館山の沖の島はヤマトウミヒルモの基準産地である。オオウミヒルモと異なり内湾的環境の泥質地に生え、潮下帯の最上部に多い。本種は九州から本州北端の陸奥湾にいたる間にも見られるが、これらは雄花の花被が紫色を帯び、葯が紅紫色を呈する。これを別亜種 subsp. *notoensis* Ohba et Miyata という。

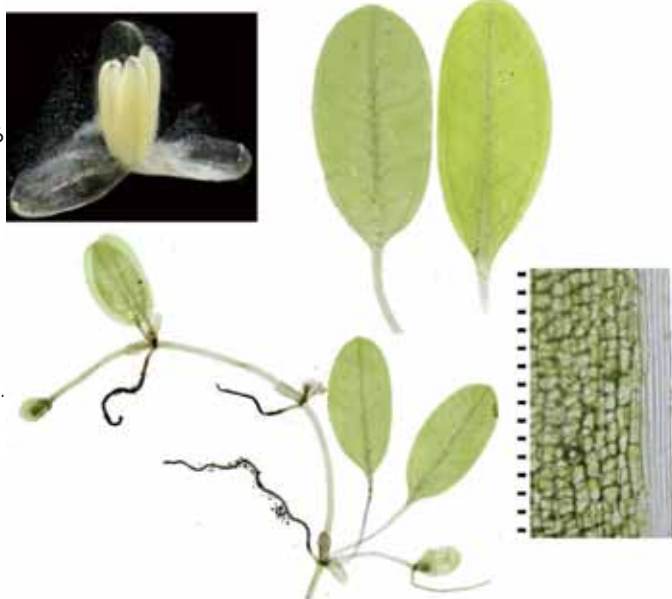
【分布】 本州（館山以西）・四国・九州。

【県内の状況】 館山の沖ノ島の内湾側、館山港のほか東京湾の数ヶ所に分布し、三浦半島にも見られる。

【保護対策】 基準産地であることも考慮し沖ノ島の生育地は手厚く保護すべきであろう。

【文献】 Kuo, J. et al. 2006 Acta Phytotax. Geobot. 57(2):141-144 / Uchimura & M.E. Faye 2006 Bull. Natn. Sci. Mus., Tokyo. Ser. B. 32(3): 131 / 大場達之・宮田昌彦 2007 日本海草図譜 15,66-67.

【写真】 2004 館山市 大場達之



（大場達之・宮田昌彦）

A タチアマモ アマモ科

最重要保護

Zostera caulescens Miki

絶滅危惧Ⅱ類 (VU)

【種の特性】多年生草本。根茎の節から多数の根を出す。葉は単葉で互生、先端縁辺部に鋸歯がない。水媒で水散布。雌雄同株。生活史と形態はアマモに似ている。葉を含めたシュートの長さは7mに達し、葉は幅は10-15mmで長さ16～90cm、葉脈は9～11本で中肋の左右に横脈の密集した部分がある。しばしば漂着した葉によってオオアマモと同定されることがあるが、横脈密集ゾーンに注目すれば両種は見誤ることはない。開花期は4-8月。肉穂花序に葯隔突起がない。生殖枝の先端に栄養葉をつけることでアマモと区別される。アマモと同所的に生育するがアマモより深いところに生える。アマモ群目。海底が砂地の潮下帯に生える。[HH]

【分布】本州（中北部沿岸）及び・朝鮮半島南部。正基準標本は京都大学(KYO)に保管され、基準産地は「KOREA、Moppo」、1932年に三木茂が採集。

【県内の状況】富津干潟、竹岡海岸、館山湾の潮下帯に生育する。

【保護対策】生育海域における海底の浚渫など環境の攪乱を避けることが望ましい。

【文献】Miki, S. (1932) Bot. Mag. Tokyo 46 : 774-788. / Miki, S. (1933) Bot. Mag. Tokyo 47 : 842-862. / Miki, S. (1934b) Bot. Mag. Tokyo 48 : 171-178 / 千植誌 2003 : 657,662 / 大場達之・宮田昌彦 2007 日本海草図譜 9-10,40-41.

【写真】2004 三浦半島 未開花株 大場達之（宮田昌彦）



A シバナ ホロムイソウ科

最重要保護

Triglochin asiaticum (Kitagawa) A.Löve et D.Löve

準絶滅危惧 (NT)

【種の特性】多年生草本。葉は単葉で互生。虫媒で水散布。内湾の潮間帯上部に群生することが多い。塩湿地に生える。ナガミノオニシバ群目。[HH]

【分布】北海道・本州・四国・九州。北半球の温帯を中心に広く分布する。北海道のものは大形でオオシバナとして区分すべきだとの意見がある。

【県内の状況】かつては九十九里沿岸の河口域に多く見られ、八日市場市、旧蓮沼村、大網白里町、旧岬町、一宮町、長生村などからの記録がある。九十九里における最新の確かな記録は吉川代之助による1968年6月3日の標本である（平塚市博物館標本、九十九里とあるだけで細かな地名は記されていない）。また千葉

県立中央博物館には若名東一が市原市の八幡海岸で採集した標本がある（1956年8月5日）。東京湾岸では千葉市浜野、市原市五井からの記録もある。現在は埋め立てや河川改修などによって絶滅したと考えられていたが、2003年に市原市の埋め立て地付近に残る旧河川の河床から健全な状態の群落が発見された。

【保護対策】東京湾岸に唯一現存する生育地を厳重に保護することが望まれる。

【文献】新千植誌 1975 : 477 / 千植誌 2003 : 659,663.

【写真】2004. 市原市 大場達之（大場達之）



A ツツイトモ ヒルムシロ科

最重要保護

Potamogeton panormitanus Biv.

絶滅危惧Ⅱ類 (VU)

【種の特性】沈水性の繊細な多年草。葉は線形で長さ2～5cm、幅0.7～1mm。イトモに似るが托葉の縁は合生して筒状になり、地下茎が伸びる。花は上下2段に分かれてつく。

【分布】本州・四国。ヨーロッパ、北米。

【県内の状況】県内では初め横芝光町古川の栗山川畔造成池で確認された（市原通雄 2000.5.13）。千葉県立中央博物館の標本を調査したところ白井地先の印旛沼で採集されていたことが明らかになった（笠井貞夫 1964.7.30, CBM）。その後、成田市の印旛沼の岸に設けられた実験堀からも埋土種子からの発生が確認された。2007年に印西市の調整池から見出されたものはツツヤナギモ *P. × apertus* Miki の可能性が高い。

【保護対策】生育環境を良好に維持し、状況に応じて埋土種子からの再発生を促すことが望ましい。

【文献】千植誌 2003: 660 / 千植写真 2005: 357 / 林紀男・谷城勝弘・浅間茂 2008: 手賀沼流域にお

ける水生植物の繁茂状況. 千生誌 (58) 1: 1-6.

【写真】

2001.5.19
横芝光町
谷城勝弘・
市原道雄。
(谷城勝弘)



A イトモ ヒルムシロ科

最重要保護

Potamogeton pusillus L.

準絶滅危惧 (NT)

【種の特性】沈水性の小型の多年生草本。葉は単葉で互生。水媒で水散布。水中茎の断面は楕円形。[HH]

【分布】日本全土。サハリン、朝鮮、台湾、中国、北米、南米など。

【県内の状況】九十九里平野の河川や池沼、印旛沼、手賀沼を中心とする利根川水系から複数の記録がある。河川、水路などの改修と護岸整備、沼の汚濁の進行等によって生育可能な環境が失われ、現存する生育地は極めて少ない。近年、印西市と成田市のため池や栗山川沿いの造成池で確認された。

【保護対策】旧生育地には埋土種子として残っている可能性があるため、生育可能な環境を良好に維持することが望ましい。現生育地は保全の努力をすることが望ましい。

【文献】伊藤至 1988 水草三題. 千葉生物誌 37(1・2): 11-14 / 千植誌 2003: 660. / 林紀男・谷城勝弘・浅間茂 2008 手賀沼流域における水生植物の繁茂状況. 千葉生物誌 58(1): 1-9.

【写真】2004.

市川市
大場達之;
2006.9.10
群馬県
谷城勝弘.
(谷城勝弘)



A カワツルモ ヒルムシロ科

最重要保護

Ruppia maritima L.

準絶滅危惧 (NT)

【種の特性】沈水性の多年生草本。葉は単葉で互生し、先端はとがり不斉の鋸歯がある。水媒で水散布。感潮域の潟湖に通じる水路などに生じる。カワツルモ群団。[HH]

【分布】本州（関東以西）・四国・九州・琉球。世界に広く分布。

【県内の状況】九十九里平野の河口付近と東京湾沿岸に記録がある。浦安市新浜には現存するが、九十九里沿岸では絶滅寸前と考えられる。近年、銚子市の屏風ヶ浦に作られた池に発生した。

【保護対策】汽水域に生えるので保全は難しい。河口付近の汽水環境を積極的に保全するとともに生育地において

ては特に保全策を強化することが望ましい。

【文献】千植誌 1958 : 432 / 千植誌 2003 : 479 / 千植誌 2003 : 664,669.

【写真】2002.08.14 浦安市 大場達之.
(谷城勝弘)



A イバラモ イバラモ科

最重要保護

Najas marina L.

【種の特性】一年生の沈水植物。植物体は剛直で厚みがある。葉は幅2～3mmで鋸歯は顕著。ヒツジグサ群団。[HH]

【分布】北海道、本州、四国、九州、奄美大島。世界の温帯～熱帯。

【県内の状況】印旛沼と手賀沼に記録があり、印旛郡佐倉町印旛沼（若名東一 1964.9.6, CBM-BS-12732）などの標本がある。印旛沼では1980年代まで生育が確認された。手賀沼畔の実験堀で埋土種子から発生が確認された。標本が得られている（天野誠 2002.8.26, CBM-BS-190875）。2008年に印旛沼の実験堀でも発生が確認された。

【保護対策】埋土種子からの発生を促し、生育地の環境を維持することが望ましい。

【文献】千植誌 2003 : 670,664.

【写真】印旛沼 千葉県立中央博物館所蔵標本.

(谷城勝弘)



A ホンゴウソウ ホンゴウソウ科

最重要保護

Sciaphila nana Blume

絶滅危惧 II 類 (VU)

【種の特長】無葉緑性の多年生草本。無葉。虫媒で重力散布。高さ 3-5cm 程度。菌根性。極めて稀。モミなどの混じったやや乾いた照葉樹林の下に生える。[G]

【分布】本州（関東以西）・四国・九州・琉球。

【県内の状況】清澄山に産することが知られていたが、1998 年に高宕山でも発見され、さらに木更津市ではモウソウチク林にクロヤツシロランと共に生えているのが発見されている。。

【保護対策】生育環境を良好に維持することが望ましい。

【文献】新千植誌 1975 : 476 / 遠藤泰彦 1999 ホンゴウソウの新産地. 千植誌資料 14 : 99 / 千植誌 2003 : 2003 : 666,671.

【写真】2006.10.22 木更津市 大場達之。(大場達之)



A ヒメアマナ ユリ科

最重要保護

Gagea japonica Pascher

絶滅危惧 IB 類 (EN)

【種の特長】多年生草本。葉は根生し 1 枚、幼弱の個体では葉は細く断面多角形の糸状、球茎の充実した個体では葉は平坦。花は 4 月に咲き、花茎上部に苞葉が数個つき数花をつけ、黄色で、陽を受けて上向きに開く。虫媒で重力散布。地下に黒褐色の球根がある。花は春早くに咲く。キバナノアマナに似ているがはるかに稀。河川の氾濫原の湿った草原、あるいは湿った夏緑林に生える。[G]

【分布】北海道・本州（これまでに知られている産地は東京都志村、埼玉県戸田、筑波山とその周辺、軽井沢、静岡県富士宮市、長野県富士見町、高野山などである）。

【県内の状況】市原市で 1970 年代に発見された。この産地は 1998 年春の調査において、ヒメアマナは健在であったがアズマネザサの繁茂で活力が低下し、開花しない状態で、個体数も極めて少ない状態であった。近隣に開発の計画があり、絶滅寸前である。

【保護対策】谷沿いの放置された二次林に生えているので、生育地周辺のアズマネザサなどを刈り取り、林床を明るく保つことが望ましい。

【文献】原寛・佐藤邦雄・黒澤幸子 1974 軽井沢の植物. 写真 111, 91 / 千植誌 2003 : 687, 680.

【写真】1982. 市原市 平田和弘。(大場達之)



A ヒメイズイ ユリ科

最重要保護

Polygonatum humile Fisch.

【種の特性】多年生草本。茎はおおむね直立し、葉は単葉で互生。上部の葉腋に緑色を帯びた筒状の花が下垂して咲く。虫媒で鳥散布。ススキ群綱。[G]

【分布】北海道・本州・九州。朝鮮、中国、サハリン、極東ロシア。

【県内の状況】北日本の砂浜海岸に多く見られるが、県内では銚子付近の海崖草原に見られるほか、成東の食虫植物群落、栗山川中流の湿原にも見られる。銚子などでは同所的にハマアマドコロが生えているので、本種と混同されている場合がある。新千植誌巻頭のヒメイズイとした写真はハマアマドコロである。

【保護対策】鑑賞目的などの採集を行わない。自然の海岸草原の環境を良好に保つ。

【文献】新千植誌 1975 : 479 / 千植誌 2003 : 674, 667.

【写真】2000. 銚子市 木村陽子 . (大場達之)



A ハマオモト ヒガンバナ科

最重要保護

Crinum asiaticum L. var. *japonicum* Baker

【種の特性】大型の常緑多年生草本。葉は単葉で互生。花は夏に咲き白色。虫媒で水散布。磯浜または砂浜のゴミの打ち上げの多いハマゴウ群落やケナシチガヤ群落の中などに生える。[H]

【分布】本州（関東以西）・四国・九州。

【県内の状況】館山市、南房総市、富津市。日本南部の黒潮など暖流の影響の強い海岸に分布し、千葉県は太平洋岸での北限とされている。気候の温暖化により、今後分布域が北にひろがるものと考えられる。

【保護対策】鑑賞目的での採集を控える。観光目的などで海岸に植えられていることがあるが、自然植生の中へ由来不詳の株を植えることは禁止すべきである。

【文献】千植誌 2003 : 690, 683.

【写真】館山市 宮田昌彦 . (大場達之)



A カキツバタ アヤメ科

最重要保護

Iris laevigata Fisch.

準絶滅危惧 (NT)

【種の特性】多年生草本。葉は単葉で互生。虫媒で水散布。湿地に生える。ホソバノヨツバムグラ - 大形スゲ群団。[HH]

【分布】北海道・本州・四国・九州。朝鮮、中国、東シベリア。

【県内の状況】長生村、茂原市、柏市、光町、富里町、芝山町、習志野市、船橋市などから報告されている。かつては水田周辺に残された小湿地に稀ではなく、谷津奥のハンノキ林にも見られたが、現在は激減している。

【保護対策】生育環境を良好に維持することが望ましい。観賞用の採取・販売・栽培をしないことが望ましい。

【文献】新千植誌 1975 : 446
/ 千植誌 2003 : 694,703.

【写真】2003.05.11 君津市栽培 大場達之。

(大場達之)



A ヒナノシャクジョウ ヒナノシャクジョウ科

最重要保護

Burmattia championii Thw.

【種の特性】菌根性の多年生草本。無葉。虫媒で重力散布。高さ 5cm 内外。照葉樹林の下などの腐植土の厚い林床に生える。カクレミノ - スダジイ群目。[G]

【分布】本州（関東以西）・四国・九州・琉球。熱帯アジア。

【県内の状況】山武町と茂原市～長生村八種で採集された標本がある。古い二次林などにも生えるが小型で見逃されていることが多いと考えられる。実際の分布はさらに広いであろう。



【保護対策】生育環境を良好に維持することが望ましい。

【文献】新千植誌 1975 : 445. / 千植誌 2003 : 695,704. 【写真】1982.9 鹿児島県 大場達之。

(大場達之)



A コゴメカゼクサ イネ科

最重要保護

Eragrostis japonica (Thunb. ex Murray) Trin.

【種の特性】水田や低地の湿地に生える1年草。稈高は50～120cmで、束生する。花序は細長い円筒形で、下部は輪生状になる。小穂は3～7小花からなり、護穎は長さ0.7mm、紅紫色をおびる。花期は8～10月。[Th]

【分布】本州（主として中部以南）・四国・九州・琉球。朝鮮、中国、東南アジア、オーストラリア、インド、アフリカ。西日本では、比較的に見られるが、神奈川県・埼玉県ではまれに分布し、県内でもごく稀で千葉県は分布の端にあたるのだろう。

【県内の状況】松戸市千葉大園芸学部付近に1928～1931年頃の記録がある。その後、印西市松崎（1969.09.21 酒井雅啓採集 CBM-BS-135747）の標本があるが、それ以降の情報がない。

【保護対策】低地の湿地、水田近くに生育するので、立地の確保が望まれる。

【文献】本田正次 1933 松戸附近植物目録 千葉高等園藝学校学術報告第2号：61-92 / 新千植誌 1975 466 / 千植誌 2003：737,745。

【写真】印西市（1969.09.21 CBM-BS-135747）千葉県立中央博物館所蔵標本。（木村陽子）



A キダチノネズミガヤ イネ科

最重要保護

Muhlenbergia ramosa (Hack.) Makino

【種の特性】多年生草本。葉は単葉で互生。風媒で風散布。長い根茎を持つ。良く似たネズミガヤは極く短い根茎しかない。温帯林に生育する。花期は8-10月。

[H]

【分布】本州（関東以西）・四国・九州。中国中部。西日本には比較的に見られるが、分布東端の茨城、千葉、埼玉、神奈川県では、稀な植物である。

【県内の状況】清澄山（1958）松戸市千葉大学園芸学部付近で1930年頃の記録があり、標本では市川市国府台（本田正次 1929年 東京大学総合研究博物館）松戸市千駄堀（1986.04.23 江塚昭典、神奈川県立生命の星・地球博物館）があるが、ネズミガヤと誤認され見逃されている可能性がある。

【保護対策】山林の生育環境を良好に維持することが望ましい。

【文献】本田正次 1933 松戸附近植物目録 千葉高等園藝学校学術報告第2号：61-92 / 千植誌 1958：424。 / 千植誌 2003：740,748。

【写真】1943.8.28 愛知県 千葉県立中央博物館所蔵標本。

（木村陽子）



A ヒゲシバ イネ科

最重要保護

Sporobolus japonicus (Steud.) Maxim. ex Rendle

【種の特性】日当たりの良い原野や丘陵地に生える1年草。稈はまばらに枝を分け、高さ10～25cm。葉身のへりに長毛がある。小穂は隙間なく並び穂状花序にみえ、1小花からなり長さ2～2.2mm、紫赤褐色で光沢があり半透明。花期は8～10月。[Th]

【分布】本州・四国・九州。朝鮮、中国。

【県内の状況】県内では松戸市千葉大園芸学部付近（1928-1931年）や成田市、長生村、茂原市に記録があるが、最近の報告はなく絶滅が懸念されていたところ、印西市別所の造成後の草地でウシクサと混生している本種が発見された（2001.09.30 木村陽子・勝山輝男・堀内洋）。2008年10月には、印西市東の原2丁目（木村陽子他）や印旛村若萩4（和田求司）などの造成地で、確認された。土地を攪乱すると一斉に発芽する植物のようだ。

【保護対策】裸地的な環境に生育するので、種を存続させるためには、時々ススキ草地などを掘り起こし、遷移の進行を止めると良い。



【文献】本田正次 1933
松戸附近植物目録 千葉高等園藝学校學術報告第二号：61-92 / 新千植誌 1975 / 千植誌 2003：740,747.
【写真】2008. 印西市 木村陽子.
(木村陽子)



最重要保護

A マイズルテンナンショウ サトイモ科

最重要保護

Arisaema heterophyllum Blume

絶滅危惧Ⅱ類 (VU)

【種の特性】多年生草本。葉は鳥足状複葉で互生、中央の小葉がほかの小葉よりも著しく小さい。虫媒で鳥散布。高さ80cm以上になる。偽茎は高く伸びる。平地の湿った林、あるいは河川の氾濫源の草原に生える。[G] 全体緑色。

【分布】本州・四国・九州。朝鮮、台湾、中国。

【県内の状況】関東地方では利根川と荒川の氾濫原に生える。1991年に岩瀬徹・原正利は柏市高田で発見した。

【保護対策】湧水地を取り囲む林全体を保全することが望ましい。



【文献】斉藤吉永 1994 調査会目録 / 千植誌 2003：798,811.
【写真】2004. 茨城県 大場達之.
(大場達之)



A ミミガタテンナンショウ サトイモ科

最重要保護

Arisaema limbatum Nakai et F.Maek. ex F.Maek.

【種の特性】中～やや大形の多年生草本。葉は鳥足状複葉で互生。花は3月。全体にヒガンマムシグサに似るが、総苞は濃褐紫色で、内面に光沢があり、総苞口部の耳状の反曲は大きい。虫媒で鳥散布。[G]

【分布】本州・四国。

【県内の状況】猿田丘陵にのみ分布が知られる。古いスギ植林と照葉樹などの2次林に見られる。関東から東北部にかけての太平洋側の低山地～山地には普通であるが千葉県では南部にヒガンマムシグサが圧倒的に多く、猿田丘陵とヒガンマムシグサの分布圏の間には、このミミガタテンナンショウ類が発見されていない。

【保護対策】生育地を保全する。また猿田丘陵など利根川沿岸の丘陵には更に分布している可能性があるため精査が必要である。

【文献】千植誌 2003 : 811, 799.

【写真】2001. 銚子市 大場達之 (大場達之)



A オオミクリ ミクリ科

最重要保護

Sparganium erectum L. var. *macrocarpum* (Makino) H.Hara

絶滅危惧II類 (VU)

【種の特性】多年生草本。ミクリに似るが果実は大小があり、大型のものは上部はほぼ平坦となる。牧野富太郎が市川市で採集した標本により記載した。

【分布】本州。朝鮮、中国。ミクリ (var. *erectum*) と混同され分布の詳細は不明である。

【県内の状況】成田市、横芝光町、茂原市、長生村などで確認され標本が得られている。詳細な調査によりさらに産地は増えると思われる。果実がミクリよりも大型になる点ではカドハリミクリ var. *coreanum* H.Hara にも似るが、カドハリミクリの果実上部は平坦にならない。ミクリ、オオミクリ、カドハリミクリの県内記録は混同している可能性があり、再検討が必要である。

【保護対策】生育地の環境を維持することが望ましい。

【文献】千植誌 2003 : 814, 801 / 千植写真集

2005 : 359.

【写真】

1995.7.29

成田市

谷城勝

弘

(谷城勝弘)



A ヤマトミクリ ミクリ科

最重要保護

Sparganium fallax Graebn.

準絶滅危惧 (NT)

【種の特性】多年生草本。葉は単葉で互生。風媒で水散布。花序の分岐はなく、雌性頭花の全部または一部は腋上性である。果実は紡錘形で中央がくびれる。湿地性または浅い水中に生える。ヨシ群綱。[HH]

【分布】本州・四国・九州。アジア東部。

【県内の状況】若名東一による山武郡千代田村（1932.5.19, CBM-BS-610）の標本があるが、生育地の現状は不明である。かつて柏市の公園内のため池に多数個体が生育していたとする情報がある。1995年に大野景德により八千代市島田の水路で確認

された（CBM-BS-117957）群落は現在県内で唯一生育確認される所である。群落の維持のため、水路の管理を目的とした刈り取りや除去から回避するよう周辺住民の理解と協力を得ることが必要である。

【保護対策】生育環境を良好に維持することが望ましい。

【文献】岩瀬徹 1989 千葉県のミクリ属について. 千生誌 39(1): 30-31 / 大野 1996 調査会目録: 4 / 千植誌 2003: 814,801 / 千植物写真集 2005: 359.

【写真】1999.6.13 八千代市 谷城勝弘.
(谷城勝弘)



最重要保護

A ナガエミクリ ミクリ科

最重要保護

Sparganium japonicum Rothert

準絶滅危惧 (NT)

【種の特性】多年生草本。葉は単葉で互生。風媒で水散布。花序は分岐せず、最下の雌性頭花に柄がある。果実は細長く、先端は嘴状に尖る。湿地性または浅い水中に生える。[HH]

【分布】日本全国。アジア極東地域。

【県内の状況】古くは若名東一による東金市雄蛇ヶ池での標本（1956.7.22, CBM-BS-7366）があるが、現在は同地で確認できない。1999年に折目庸雄は富里市根本名の水路（CBM-BS164395）で、次いで2001年に谷城勝弘は栗源町浅黄の栗山

川で群落を確認している。現在確認される県内の生育地は前記の2ヶ所だけである。

【保護対策】生育可能な環境を維持するとともに、河川管理に伴う清掃等の目的によって除去することのないように特別な保護策をとることが望ましい。

【文献】岩瀬徹 1989 千葉県のミクリ属について. 千生誌 39(1): 30-31 / 角野康郎 1994 日本水草図鑑: 80 / 千植誌 2003: 814,801 / 千植写真集 2005: 359.

【写真】2001.8.7 富里市 谷城勝弘.
(谷城勝弘)



A ヒメミクリ ミクリ科

最重要保護

Sparganium subglobosum Morong

絶滅危惧 II 類 (VU)

【種の特性】多年生草本。葉は単葉で互生。風媒で水散布。葉幅 3 ~ 7mm。果実は倒卵形で小柄がない。湿地性。ヨシ群綱。[HH]

【分布】北海道・本州・四国・九州・琉球。東アジア、インド、オーストラリア、ニュージーランド。

【県内の状況】山武市、長生村、成田市、匝瑳市などに生育が知られている。長生村藪塚には 1990 年代まで多数個体が生育する所があったが工場用地造成に伴う盛土によって消滅した。この個体の一部は長生村尼ヶ台公園に移植、育成されている。成田市（旧大栄町）多良貝池畔の個体は遷移が進行してヨシが繁茂し、消滅した。匝瑳市（旧八日市場市）の休耕田ではその後の耕転で消滅した。山武市の現状は不明である。

【保護対策】生育地の環境を良好に維持し、刈り取りなどの管理によって大型草本群落への遷移の進行を阻止することが望ましい。

【文献】千植誌 1958 : 433 / 新千植誌 1975 : 479 / 角野康郎 (1994) 日本水草図鑑 : 8 / 谷城 1995 調査会目録 : 122 / 千植誌 2003 : 814,801 / 千植写真集 2005 : 360.

【写真】1999.7.10 旧野栄町 谷城勝弘.

(谷城勝弘)



A トダスゲ カヤツリグサ科

最重要保護

Carex aequalta Kük.

絶滅危惧 IB 類 (EN)

【種の特性】多年生草本。風媒で重力散布。頂小穂は線形で次の雌小穂より短い。果胞は卵円形で膨らみ、短い嘴がある。河畔の草地に生育する。

【分布】本州・九州（稀）。中国。

【県内の状況】横芝光町於幾の栗山川中流部河川敷で確認された（市原・谷城 2008.5.25、CBM-BS-259722）。10m²程の範囲に 30 個体前後の生育がある。生育地は夏季にはヨシ、オギなどの大型多年草が繁茂するが、年に 1 回の刈り取りまたは野焼きが行われ、スゲ類をはじめとする小型草本の生育が維持されている。同所は春にはヒキノカサ、エキサイゼリ、コヒロハハナヤスリ、ハナムグラなどの稀少種の群生がある。

【保護対策】トダスゲは日本で極めて稀な存在であり、同所的に生育するヒキノカサ、エキサイゼリなども保護対応すべき稀少種である。このような複数の種が同所的に生育する当該の箇所を保護地

として管理してゆくことが望ましい。

【文献】市原・谷城（未発表）：千葉県のとダスゲ

【写真】

2008.5.25
横芝光町
谷城勝弘.

(谷城勝弘)



A ムジナスゲ カヤツリグサ科

最重要保護

Carex lasiocarpa Ehrhart var. *occultans* (Franch.) Kük.

【種の特性】多年生草本。葉は単葉で互生。風媒で水散布。葉幅 1.5 ~ 3mm。地下走出枝が長く伸びて繁殖する。果胞に密毛がある。湿地性。ホソバノヨツバムグラ - 大形スゲ群団。[HH]

【分布】北海道・本州（中北部）に稀産。千島、サハリン、朝鮮、シベリア東部。千葉県は分布の南限。

【県内の状況】1988 年に多古光湿原で発見された（谷城勝弘 1989.4.16, CBM-BS-145391）。この湿原は多古町中村新田及び横芝光町篠本にまたがり、県内最大級の面積をもつ。湿原内には県内唯一の種類が複数生育している。ムジナスゲは湿原中央部のカモノハシによる谷地坊主の発達した凹地を中心に点在している。2008 年の調査では本種の生育が確認できなかった（谷城・市原、未発表）。定期的刈り取りの中止によって、消滅した可能性がある。

【保護対策】生育地はヨシ・スゲ類が優占し、毎年冬期にヨシの刈り取りが継続されてきた箇所である。刈り取りによってヨシ、セイタカアワダチソウなどの高茎草本の繁茂が抑えられ、小型の草本類の生育が維持されてきた。刈り取り管理を継続するとともに複数の県内稀少種を育む多古光湿原を保護・保全の重点地域とすることが望ましい。

【文献】伊藤至 1988 高等植物分布資料（126）ムジナスゲ 植物研究雑誌 64(2) / 谷城 1990 調査会目録：114 / 谷城勝弘 1991 調査会目録：167 / 谷城勝弘 1993 調査会目録：250 / 谷城勝弘 1995 千葉県のスゲ属植物。新版千葉県の生物：37-50 / 千植誌 2003：855,843 / 谷城勝弘 2004 栗山川中流部の湿原の植物。千葉県自然環境保全学術調査報告書。千葉県環境生活部自然保護課：7-29 / 千植写真 2005：360。

【写真】1991.5.10 多古光湿原 谷城勝弘。

（谷城勝弘）



最重要保護

A アズマスゲ カヤツリグサ科

最重要保護

Carex lasiolepis Franch.

【種の特性】常緑多年生草本。葉は単葉で互生。風媒で水散布。全草に毛が密生する。森林性。乾燥した夏緑林または照葉樹林の林床、特に尾根筋に見られる。低地遺存ブナ帯要素。[H]

【分布】北海道・本州・九州。

【県内の状況】清澄山における 2 点の採集品が千葉県立中央博物館に収蔵されている（若名東一 1959.8.18、1963.3.27 CBM-BS-12091）。また吉川純幹（1957）の日本スゲ属植物図譜（第 68 図）には清澄山産のものが用いられている。神奈川県立生命の星・地球博物館には 1953 年 4 月 9 日、大場達之採集の標本がある（KPM12553）。清澄山産のものはかつての寒冷な時代の遺存と思われる。清澄山系の継続的な調査によって 2005 年に再発見された。

【保護対策】清澄山系の尾根筋には生育地が残っている可能性

があるので、この地域一帯の保護が望ましい。

【文献】千植誌 1958：410 / 谷城勝弘 1995 千葉県のスゲ属植物。新版千葉県の生物：37-50 / 千植誌 2003：845,843

【写真】2005.3.31 清澄山 谷城勝弘。

（谷城勝弘）



A カタスゲ カヤツリグサ科

最重要保護

Carex macrandrolepis H.Lév.

【種の特 性】多年生草本。葉は単葉で互生。風媒で水散布。根茎は長く匍匐し、暗褐色の繊維が著しくつく。森林性または草地性。[H]

【分布】本州（千葉県以西）・伊豆大島・九州。朝鮮南部、台湾。

【県内の状況】1991年に岬町中原で確認された（谷城勝弘 1991.5.4, CBM-BS-144498）。善性寺周辺では際立って個体数が多く、林内や生垣にも生える。周辺域への広がりは少なく、生育範囲は3ha以内と推定される。

【保護対策】生育環境を良好に維持することが望ましい。

【文献】谷城 勝弘 1992 調査会目録：159 / 谷城勝弘 1993 調査会目録：246 / 谷城勝弘 1995 千葉県のスゲ属植物。新版千葉県の生物：37-50 / 千植誌 2003：843,846. / 千植写真集 2005：360.

【写真】1996.5.24 旧岬町 谷城勝弘。

（谷城勝弘）



A ヌマクロボスゲ カヤツリグサ科

最重要保護

Carex meyeriana Kunth

絶滅危惧Ⅱ類 (VU)

【種の特 性】多年生草本。葉は単葉で互生。風媒で水散布。細くて硬い種で、葉は灰緑色で幅1～1.5mm。湿地性。[HH] ホソバナヨツバムグラ - 大形スゲ群団。

【分布】本州（中北部）・九州の湿原。朝鮮、中国（東北）、シベリア東部。

【県内の状況】1988年に多古光湿原（多古町中村新田・横芝光町篠本）で確認された（谷城勝弘 1988.4.24, CBM-BS-79643）。1990年代までは湿原でのヨシの刈り取り作業が広範囲に継続されていたが、2000年代は刈り取り範囲が急減した。そのため、ヨシ、セイタカアワダチソウなどの大型草本が繁茂し、消滅する個体が急増した。

【保護対策】多古光湿原はヨシ・スゲ類の優占する湿地で、毎年冬期にヨシの刈り取りが継続されてきた。刈り取りによってヨシの純群落への移行が抑えられ、小型の草本類は生育を維持してきた。本県における稀少種の維持のために刈り取り継続の方策を検討することが望ましい。

【文献】谷城勝弘 1987 栗山川中流部の湿原。千葉県自然環境保全地域等適地調査報告書Ⅱ：265-297 / 伊藤至 1988 千葉県の新記録エゾツリスゲとヌマクロボスゲ。レポート日本の植物 37：165 / 谷城 1990 調査会目録：113 / 谷城 1991 調査会目録：164 / 岩瀬・谷城・小野沢 1993 栗山川中流部の湿原。千葉県自然環境保全学術調査報告書：7-56 / 谷城 1993 調査会目録：249 / 谷城勝弘 1995 調査会目録：116 / 谷城 1995 千葉県のスゲ属植物。新版千葉県の生物：37-50 / 千植誌 2003：832,822 / 谷城勝弘 2004 栗山川中流部の湿原の植物。千葉県自然環境保全学術調査報告書。千葉県環境生活部自然保護課 7-29 / 千植写真 2005：360.

【写真】1993.5.5 多古光湿原 谷城勝弘。

（谷城勝弘）



A エゾツリスゲ カヤツリグサ科

最重要保護

Carex papulosa Boott

【種の特性】多年生草本。葉は単葉で互生、灰緑色を帯び、基部の葉鞘はわら色。風媒で水散布。高さ 30 ~ 50cm。小穂は 2 ~ 3 個あって、頂小穂は雄性、側小穂は雌性で長い柄があって下垂する。湿地性。ホソバノヨツバムグラ - 大形スゲ群団。[HH]

【分布】北海道・本州（中部以北）・九州に稀。国内では隔離的に分布している。朝鮮、ウスリー。

【県内の状況】多古光湿原で確認され（谷城勝弘 1987.5.5, CBM-BS-145403）、その後この湿原を含む流域の詳細な調査により栗山川沿いの湿地にも点在することが判明した。湿原内には特に高密度で生育している。冬季の刈り取り範囲が激減しており、ヨシが密に繁茂した所では生育量が減っている。

【保護対策】刈り取りによってヨシの純群落への移行とセイタカアワダチソウなどの大型多年草の侵入が抑えられ、小型の草本類の生育が維持されてきた。刈り取りを継続し、生育環境を維持することが望ましい。

【文献】谷城勝弘 1987 栗山川中流部の湿原. 千葉県自然環境保全地域等適地調査報告書: 265-297. / 伊藤至 1988 千葉県の新記録エゾツリスゲとヌマクロボスゲ. レポート日本の植物 37: 165 / 谷城 1990 調査会目録: 114 / 谷城勝弘 1991 調査会目録: 167 / 岩瀬・谷城 1992 千葉県多古町次浦の栗山川沿い湿地の植物群落. 千葉生物誌 4(21): 53-56 / 谷城勝弘 1993 調査会目録: 249 / 岩瀬・谷城・小野沢 1993 栗山川中流部の湿原. 千葉県自然環境保全学術調査報告書: 7-56 / 谷城勝弘 1995 調査会目録: 114 / 谷城 1995 千葉県のスゲ属植物. 新版千葉県の生物: 37-50 / 千植誌 2003: 844,846. / 千植写真 2005: 360. / 岩瀬・谷城・市原・久保田・野口 2007 栗山川中流部河川敷の植物と植物群落. 千葉生物誌 57(1,2): 39-45.

【写真】2004.5.4 多古光湿原 谷城勝弘（谷城勝弘）



最重要保護

A ムギガラガヤツリ カヤツリグサ科

最重要保護

Cyperus unioides R.Br.

絶滅危惧 IA 類 (CR)

【種の特性】中形の夏緑多年草。地下に横走る短い地下茎があり、秆は直立し高さ 40 ~ 60cm。秆の貴部から出る葉は秆よりも短く幅 3 ~ 4mm、枯葉は著しく螺旋状。花は 9 月。小穂は扁平で秆の上端に集まり短い柄があり、別に 1 ~ 2 個の長い柄の先に 3 ~ 4 個の小穂をつける、小穂は長さ 15mm、5mm ほど。小穂の鱗片は基部半ば花軸をつつみ、鱗片の着点は裸出している。花柱は先端 2 裂。雄蕊は 3 本。花糸は花後伸張して扁平となる。瘦果は黒色でやや光沢があり、低いコブ状の凹凸がある。

【分布】本州（千葉県以西）・四国西部・九州。世界の熱帯に広く分布。栃木県からの報告もあるが、これは標本を検討したところ、近似したタチガヤツリであった。

【県内の状況】銚子市の屏風ヶ浦の湿地で大場達之が 1951 年 9 月 2 日に採集し、2004 年 9 月 16 日に同じ場所で再発見した。

【保護対策】自生地の湿地を保全する。

【文献】大場達之 2004 53 年ぶりに再発見された銚子のムギガラガヤツリ. 千植誌資料 20: 163-164.

【写真】2004.9.16 銚子市 大場達之.

（大場達之）



A イッスンテンツキ カヤツリグサ科

最重要保護

Fimbristylis kadzusana Ohwi

絶滅危惧 IA 類 (CR)

【種の特性】一年生草本。葉は単葉で互生。風媒で重力散布。高さ 5 ~ 15cm、花序は 1 ~ 3 個の小穂をつけ、果実は黒褐色。柱頭は 2 個。奥山春季が茂原市 ~ 長生村八積間で発見した種。湿地性（海岸性）。ミミカキグサ - イヌノハナヒゲ群目。[Th]

【分布】本州。千葉、東海地方の海岸近くに稀。

【県内の状況】九十九里平野南部の茂原市、長生村、一宮町の湿地に生育していた。標本は、一宮高根本郷村（中村守一 1933.9.21 KYO）、一宮高根本郷村（中村守一 1933.9.21）、八積（中村守一 1934.9.23 CBM-BS-89465 千葉県立中央博物館）、八積（奥山春季 1936.10.11 KYO）、長生郡一松村湿地（御園勇 1937.9.12 KYO、標本ラベルに数十坪内に多数群生と記す）、八積（小山鐵夫 1955.10 KYO）がある。1956 年以降については確認情報もあるが、証拠標本がない。

【保護対策】旧生育地には埋土種子として残っている可能性があるため、生育可能な環境を保全し、回復を試みることを望ましい。

【文献】御園勇 1939 千葉県産テンツキ属について、22 頁 / 奥山春季 1947 植物採集覚書。植物研究雑誌 21(7-12) : 54 / 千植誌 1958 : 416 / 新千植誌 1975 : 461 / 千植誌 2003 : 862 / 千植写真 2005 : 361。

【写真】1934. 長生村 千葉県立中央博物館所蔵標本。

（谷城勝弘）



A ハタケテンツキ カヤツリグサ科

最重要保護

Fimbristylis stauntonii Deb. et Franch.

絶滅危惧 IB 類 (EN)

【種の特性】一年生草本。葉は単葉で互生。風媒で水散布。トネテンツキに似るが、鱗片は 1.0mm、果実は 0.7mm と小さい。柱頭はトネテンツキのように鱗片からあまり突出しない。湿地性。アゼナ群団。[H]

【分布】本州・九州（稀）。

【県内の状況】成田市（旧下総町）滑川の利根川河川敷で採集された標本がある（小崎昭則 1985.9.15, CBM-BS-84078）。当地は、後の遷移の進行に伴ってヨシ、セイタカアワダチソウなどの大型多年草が侵入して本種の生育に適切な環境が失われた。以降は確認されておらず、消滅した可能性が高い。

【保護対策】旧生育地には埋土種子として残っている可能性があるため、表土を攪乱するなどの試験的植生発掘を試みることも有効である。湿地環境を良好に維持することが望ましい。

【文献】小崎昭則 1991 千葉県で見つけたハタケテンツキ。スゲの会会報 2 : 12-15 / 千植誌 2003 : 861,851. / 千植写真 2005 : 361。

【写真】2002.10 栃木県 谷城勝弘。

（谷城勝弘）



A コイヌノハナヒゲ カヤツリグサ科

最重要保護

Rhynchospora fujiiana Makino

【種の特性】多年生草本。葉は単葉で互生。風媒で付着散布。小穂は5～6mm。果実は狭倒卵形で長さ2mmくらい。刺針は6本で直立、果実より少し長く平滑である。湿地性（丘陵地性）。ミミカキグサ-イヌノハナヒゲ群目。[H]

【分布】北海道・本州・四国・九州。朝鮮。

【県内の状況】千植誌（1958, 2003）、新版千植誌（1975）に茂原市の記録があるが、イトイヌノハナヒゲやヒメイヌノハナヒゲにも似ているので、誤同定の可能性がある。海上町の崖湿地に少数個体が生育し、成東湿原に多産する。

【保護対策】現生育地を管理し、生育可能な環境を維持することが望ましい。海上町の崖湿地は、町指定の保護対象とされている。

【文献】千植誌 1958：417 / 新千植誌 1975：462 / 千植誌 2003：859,850. / 千植写真 2005：361.

【写真】1992.9.7 旧海上町 谷城勝弘



最重要保護

A シズイ カヤツリグサ科

最重要保護

Scirpus nipponicus Makino

【種の特性】多年生草本。葉は単葉で互生。風媒で水散布。根茎は長い。葉は扁平。刺針4。柱頭2。ヨシ群綱。湿地性。[H]

【分布】北海道・四国・九州。中国、ウスリー。

【県内の状況】市川市外真間（下総真間村）の標本（1983.8 TNS-3516-Type）に基づいて牧野富太郎が記載した。都市化に伴う環境の変化で当時の生育地では消滅した可能性が高い。1991年、長生村において本種の群落が発見された。長生村宮成地区には休耕地が多数存在しており、シズイはこの中の2ヶ所の休耕地で群生している。周辺域への拡大は認められず、地域的特性の強い種と判断される。

【保護対策】現生育地の環境を良好に管理することが望ましい。

【文献】牧野富太郎 1904 植物学雑誌 18：112 / 千植誌 1958：417 / 新千植誌 1975：463 / 岩瀬・谷城・野口・久保田 1998 長生村湿地帯の植物. 千葉生物誌 48(1)：6-22 / 千植誌 2003：879,874. / 千植写真 2005：361.

【写真】1993.8.10 長生村 谷城勝弘

（谷城勝弘）



A ミカワシンジュガヤ カヤツリグサ科

最重要保護

Scleria mikawana Makino

絶滅危惧Ⅱ類 (VU)

【種の特 性】一年生草本。葉は単葉で互生、葉鞘は無翼で、葉は硬い。風媒で付着散布。

果実は無毛で光沢はない。湿地性。ミミカキグサ - イヌノハナヒゲ群綱。[Th]

【分布】本州（関東以西）・九州。インド、オーストラリア。

【県内の状況】古くから茂原・長生の湿地に生育することが知られていたが、1990年代に長生村藪塚で再発見された。同地は工場用地として埋め立て予定であったが、県内有数の湿地性の稀少種が複数生育していたため、保護対策が検討された。その結果、稀少種を含む表土を尼ヶ台公園に移植して保護・育成している。

【保護対策】湿地環境を良好に維持し管理することが望ましい。

【文献】千植誌 1958 : 418 / 新千植誌 1975 : 463 / 岩瀬・谷城 1992 千葉県長生村藪塚に残存する湿地群落 . p. 11 / 岩瀬・谷城・野口・久保田 1998 長生村湿地帯の植物 . 千葉生物誌 48(1) : 6-22 / 千植誌 2003 : 856,849 / 千植写真 2005 : 361.

【写真】2000.8.28 長生村 谷城勝弘 .
(谷城勝弘)



A マメヅタラン ラン科

最重要保護

Bulbophyllum drymoglossum Maxim.

準絶滅危惧 (NT)

【種の特 性】樹木着生性の常緑多年生草本。葉は単葉で互生。虫媒で風散布。細い茎を伸ばして基物に付着して広がる。主として照葉樹の樹幹あるいは岩に着生する。シダレヤスデゴケ - ヒメケビラゴケ群団。[E]

【分布】本州（関東以西）・四国・九州・琉球。朝鮮南部、台湾、中国。

【県内の状況】明治 15 年大久保三郎が清澄山で採集し、マキシモウィチが学名を与えたが、記載は大久保が行った。その等価基準標本 3 枚は東京大学総合研究博物館に残っている。清澄山のほか、大福山、高宕山などでも採集されているが、

確実に現存が確認できるところは極めて少ない。

【保護対策】生育環境の自然林を良好な状態に保護するとともに、観賞用の採取・販売・栽培をしない。生育地点のみを保護しても、周囲の伐採によって空中湿度が低下すれば衰退する。

【文献】Okubo, S. 1887 Bot. Mag. Tokyo 1 : 14, t. 3 / 倉田悟 1951 千葉県清澄山のラン科植物 . 演習林 8 : 73. / 千植誌 2003 9/10,922.

【写真】2001.5.15 君津市 福田洋 .
(大場達之)



A ムギラン ラン科

最重要保護

Bulbophyllum inconspicuum Maxim.

準絶滅危惧 (NT)

【種の特性】常緑の着生多年草。楕円球状の多肉の偽鱗茎から出る葉は厚く倒卵形。花は5～6月に咲き、短い花序の先に1～3花の淡黄緑色の花をつける。虫媒で風散。常緑樹の樹幹、ときに岩面に着生する。(E)

【分布】本州（関東以西）・四国・九州。

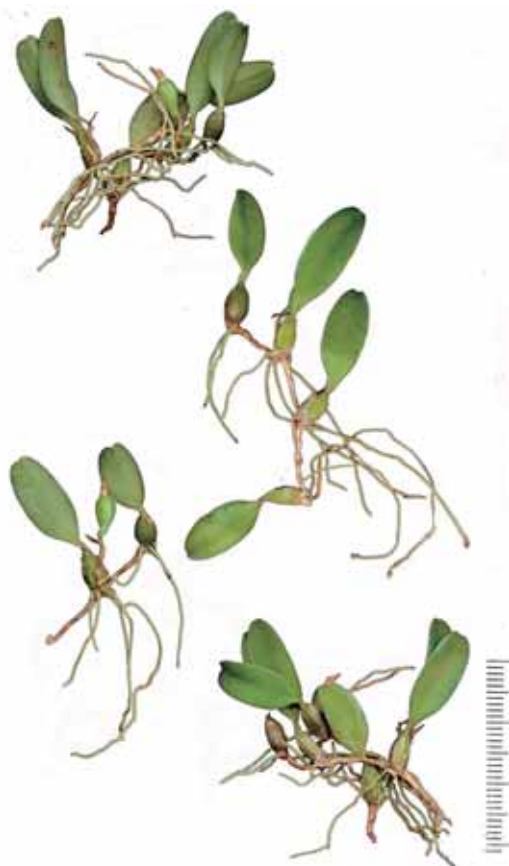
【県内の状況】房総丘陵の自然林、社寺林、岩場などに生えるが、環境の乾燥化などで減少している。

【保護対策】自生の見られるモミ林、ウラジロガシ林などを保全する。観賞用などでの採集を行わない。

【文献】倉田悟 1951 千葉県清澄山のラン科植物。演習林 8：73 / 千植誌 2003 922,910.

【写真】1997 宮崎県千葉市栽培 大場達之。

(大場達之)



A ヒメノヤガラ ラン科

最重要保護

Chamaegastrodia sikokiana Makino et F.Maek.

絶滅危惧 II 類 (VU)

【種の特性】小型で無葉菌根性の多年生草本。高さ5～15cmで無葉。花は7～8月に咲き、筒状で平開しない。虫媒で風散布。全体に赤褐色を帯びる。尾根筋のモミ林あるいはスギ林の林床に生える。カクレミノ・スダジイ群目。[G]

【分布】本州・四国・九州。

【県内の状況】清澄山周辺には古くから知られているが、近年鴨川市のスギ林からも発見された。個体数は極めて少ない。1995年に生育を確認している。

【保護対策】生育地である森林の環境を良好に維持することが望ましい。

【文献】前川文夫 1981 原色日本のラン：248. / 千植誌 2003：918,906.

【写真】1996.7. 君津市 大場達之。

(大場達之)



A トケンラン ラン科

最重要保護

Cremastra unguiculata (Finet) Finet

絶滅危惧 II 類 (VU)

【種の特性】中型の多年生草本。花茎は1本で高さ30～40cm, 根生葉は長蛇円形で縦筋が目立ち、一株に2枚出て地表に広がる。花は5～6月に咲き、側弁は黄褐色で紫色の斑点がある、唇弁は白色で紫色の斑点がある。虫媒で風散布。夏緑林の林床に生える。[H]

【分布】北海道・本州・四国。朝鮮(済州島)。

【県内の状況】2003年に木更津市の夏緑樹と照葉樹の混じる二次林ではじめて発見された。個体数は極めて少ない。

【保護対策】観賞用の採取を行わない。自生地を保全する。

【文献】保坂誠治・藤平量郎・大場達之・木村陽子 2008 トケンランが千葉県で発見された。千植資料 24: 225-226.

【写真】2008. 木更津市 大場達之。(大場達之)



A コアツモリソウ ラン科

最重要保護

Cypripedium debile Reichb. f.

準絶滅危惧 (NT)

【種の特性】多年生草本。葉は単葉で対生、光沢のある葉を茎の先に2枚対生につける。虫媒で風散布。花は5～6月に咲き、深くうなだれて葉の下に隠れる。主としてモミ林の粗腐植層の厚い林床に生える。[G]

【分布】北海道南部・本州・四国・九州。中国。

【県内の状況】清澄山、三石山などに古くから知られているが、もともと個体数が少なく、選択的採取圧もあって少なくなっている。

【保護対策】生育環境の自然林を良好な状態に保護するとともに、観賞用の採取・販売・栽培をしないことが望ましい。

【文献】倉田悟 1951 千葉県清澄山のラン科植物。演習林 8: 74

/ 正宗徹敬・里見信生 1974 北陸の植物 21(4): 63 / 橋本保・神田淳 1981 原色野生ラン: 15 (千葉県での写真がある)。/ 千植誌 2003 910,901.

【写真】1989.4.30 養老溪谷 福田洋。(大場達之)



A セッコク ラン科

最重要保護

Dendrobium moniliforme (L.) Sw.

【種の特性】樹木着生性の常緑多年生草本。葉は単葉で互生。虫媒で風散布。多肉な茎を叢生し、6月頃香りのよい白～淡紅色の花を咲かせる。巨樹や岩に着生する。[E]

【分布】本州・四国・九州・琉球。朝鮮南部、中国。

【県内の状況】清澄寺境内の古木に着生するものは昔から有名であるが、境内が明るくなり乾燥化しているので数は少なくなっている。そのほか高宕山でも記録されているが少ない。

【保護対策】観賞用の採取・販売・栽培をしないことが望ましい。

【文献】倉田悟 1951 千葉県清澄山のラン科植物。演習林 8 : 74 / 能勢保 1951 千葉県のラン科植物。千植誌基礎資料 1(1) : 44-50 / 千植誌

2003

922,910.

【写真】宮

崎県 大

場達之・

(大場達之)



A ハマカキラン ラン科

最重要保護

Epipactis helleborine (L.) Crantz var. *sayekiana* (Makino) Hashimoto

絶滅危惧 II 類 (VU)

【種の特性】多年生草本。葉は単葉で互生。若い花序の先端は垂れ下る。花は6月に咲く。唇弁基部の広い農褐色の蜜盤が特徴的である、虫媒で風散布。砂浜海岸のクロマツ林の下に生える。[G]

【分布】本州。神奈川、千葉、茨城、宮城、岩手各県から知られている。最初神奈川県藤沢市鵠沼海岸で発見され牧野富太郎によって命名された植物で、カキランの海岸型と考える研究者もあったが、後にエソスズランの変種に組み替えられた。その後、橋本保はヨーロッパに広く分布する *Epipactis helleborine* (L.) Crantz の変種としている。*E. helleborine* は北アメリカの太平洋岸の広い範囲に帰化していることが知られている。日本に見られるものも *E. helleborine* の変種ではなく *E. helleborine* そのものの帰化である可能性がある。

【県内の状況】牧野富太郎は最初千葉県の一宮海岸で発見し、次いで神奈川県の鵠沼で採集したという、すなわち千葉県が最初の発見地である。個体数は少ない。1997年豊田路子は長生村で確認している。ほかに旧大原町、一宮町での観察記録がある。千葉県植物誌(1958)に富津で採集されたという記述もある(能勢1958)。

【保護対策】ほかのラン科植物と同じく、観賞用の採取・販売・栽培をしないことが望ましい。また生育地の松林を自然な姿に保全する。

【文献】牧野富太郎 1948 我が思ひ出 76。; 能勢保(1958) 千葉県に於けるラン科植物の分布とその外的要因について。新千植誌 1975 : 198-198 / 橋本保・神田淳 1981 原色野生ラン 73 / Luer, C.A. 1975 The Native Orchids of the United States and Canada excluding Florida. 75-76. / 千植誌 2003 915,9050.

【写真】岬町 能勢保所蔵標本; 神奈川県(花)。

(大場達之)



A ナヨテンマ ラン科

最重要保護

Gastrodia gracilis Blume

絶滅危惧 IB 類 (EN)

【種の特性】無葉緑菌根性の多年生草本。花は白色。虫媒で風散布。照葉樹林あるいはスギ林の厚い腐植土に生える。6月末に開花する。オニノヤガラの白花品種シロテンマに似ているが、花柄が花後に5cmほどに伸張すること、茎の鱗片葉が円頭であることなどで区別できる。[G]

【分布】本州（関東地方以西の太平洋側）・九州。

【県内の状況】小川春海が1933年に清澄山で採集した標本が牧野標本館に収蔵されているほか、山武市、大網白里町、千葉市などで記録されているが、極めて稀な植物である。

【保護対策】生育環境を良好に維持することが望ましい。

【文献】津山尚 1952 日本産オニノヤガラ属雑記 (1) *Gastrodia gracilis* Bl. の再発見に就いて. 植物研究雑誌 27: 19-26. / 千植誌 2003: 916,906.

【写真】2006.07.09 大網白里町 福田洋 (大場達之)



A ハチジョウシュスラン ラン科

最重要保護

Goodyera hachijoensis Yatabe

【種の特性】常緑多年草。茎は地表を這い赤褐色。葉は常緑で互生し、中肋にそって白く刷毛で掃いたような白斑がある。花は9月に咲き、高さ10～15cmほどの花茎を出し、長さ4mmほどの淡褐色の花を密につけ、シナモン様の香りがある。葉に白斑のないものをオオシマシュスランと呼び、ハチジョウシュスランと混生し、千葉県ではこちらの方が多い。[H]

【分布】本州（関東南部・伊豆諸島）・九州・琉球。台湾。

【県内の状況】オオシマシュスランは1998年に御宿町ではじめて記録され、その後2006年に館山市のいくつかの場所でハチジョウシュスランとともに見つかった。気候温暖化による分布の拡大と考えられる。館山市の産地からはハチジョウシュスラン、オオシマシュスランが大量に生育する伊豆大島が指呼の間に見える。

【保護対策】鑑賞目的などでの採取を行わない。

【文献】千植誌 2003: 918, 907.

【写真】2008. 館山市 大場達之 (大場達之)



A カゴメラン ラン科

最重要保護

Goodyera hachijoensis Yatabe var. *matsumurana* (Schltr.) Ohwi

【種の特性】常緑多年草。ハチジョウシスランに極めて近縁の変種で、葉には全体に網目状の細い白斑がある。(H)。

【分布】本州（関東南部・伊豆諸島）・九州・琉球。台湾。

【県内の状況】2007年に館山市で発見された。ハチジョウシスラン、オオシマシスランと混生するが個体数は少ない。

【保護対策】鑑賞目的などでの採取を行わない。

【文献】

【写真】2007 館山市 大場達之・
(大場達之)



A ベニシスラン ラン科

最重要保護

Goodyera macrantha Maxim.

【種の特性】小型の常緑多年生草本。葉は単葉で互生し、濃緑色で表面はピロード状で中肋は白い。花は7月頃に咲き、花茎の先に1～3個、長さ3cmほどの白くわずかに紅色を帯びた花を咲かせる。虫媒で風散布。空中湿度の高い渓谷の岩上に生える。地上生。[H]

【分布】本州（関東以西）・四国・九州。朝鮮南部。

【県内の状況】大多喜町と君津市に記録されている。清澄山には古くから知られ、高岩山周辺からも採集されている。花が大きく観賞用に採取されることが多く、著しく少なくなっている。

【保護対策】生育地の谷の植生を保全するとともに、観賞目的の採取・販売・栽培をしないことが望ましい。

【文献】能勢保 1951 千葉県産のラン科植物・千植誌基礎資料 1(1): 44-50 / 正宗巖敬・里見信生 1960 北陸の植物 9(1): 1. / 千植誌 2003: 919,907.

【写真】2003.07.17 鴨川市 大場達之・

(大場達之)



A ダイサギソウ ラン科

最重要保護

Habenaria dentata (Sw.) Schltr.

絶滅危惧 IB 類 (EN)

【種の特性】多年生草本。葉は単葉で互生。虫媒で風散布。高さ 60cm ほどになる。花は 8 ～ 9 月に咲き白色。湿った草地や土手に生える。[G]

【分布】本州（関東以西）・四国・九州・琉球。台湾、熱帯アジア。

【県内の状況】館山市、市原市鶴舞（角田実 1956）のほか南房総市（旧千倉町）などの報告があるが詳細な産地は明らかでない。美しい草なので標本は多く残されているが、実際の産地は限られており、同一地点で複数回採集されていることが多い。現在確かな産地は極めて少ない。全体が大形ではなはだ目立った白い花を群がりつけるので観賞用に採取される危険が大きい。

【保護対策】二次的な草地に生えるので、草地の刈り取りを従前通り行うことが望ましい。観賞用の採取・販売・栽培をしないことが望ましい。

【文献】浅野貞夫 1950 千葉県にダイサギソウ自生す。採集と飼育 12(6) : 188-189 / 角田実 1956 千葉生物誌 9(4) : 94-96. / 千植誌 2003 : 911,901.

【写真】1985 高知県 大場達之。
(大場達之)



A ムカゴトンボ ラン科

最重要保護

Habenaria flagellifera Makino

絶滅危惧 IB 類 (EN)

【種の特性】多年生草本。葉は単葉で互生。虫媒で風散布。群れて生えることは少ない。花は緑色で小さく夏に咲く。葉はややオオバノトンボソウに似る。湿った粘土質の崖や湿地などに生える。[G]

【分布】本州（関東以西）・四国・九州・琉球。

【県内の状況】茂原市～長生村八積にかけての湿地と成東・東金食虫植物群落地から記録されている。最も新しい記録は 2001 年である。

【保護対策】生育環境を良好に維持することが望ましい。既知の産地と同質に見える環境はあちこちに見られるが実際に生育する場所は極めて限られている。微妙な環境の質を要求する種と考えられる。

【文献】千葉県 1978 第 2 回自然環境保全基礎調査特定植物群落調査報告書 / 千植誌 2003 : 912,902. / 千植写真 2005 : 364.

【写真】(左) 1993.9.2 山武市 能勢正代 / (右) 鹿児島県 大場達之。
(大場達之)



A オオミズトンボ ラン科

最重要保護

Habenaria linearifolia Maxim.

絶滅危惧ⅠA類 (CR)

【種の特性】中型の多年生草本。茎は断面が円形で高さ40～50cm、葉は単葉で互生。花は8月に咲き、白色で長い距がある。唇弁の側裂片は側方に開出し鋭い鋸歯がある。虫媒で風散布。湿原に生える。[HH] 別名サワトンボ。

【分布】北海道(西南部)・本州・四国・九州・琉球。朝鮮、台湾、中国。

【県内の状況】成東から茂原にかけての地域と、市原市の鶴舞から知られている。

【保護対策】観賞用の採取を行わない。自然的な湿地を保全する。

【文献】千植誌 2003 : 912,902.

【写真】2008.9.3 成東町 能勢正代.



(大場達之)



A ミズトンボ ラン科

最重要保護

Habenaria sagittifera Reichb. f.

絶滅危惧Ⅱ類 (VU)

【種の特性】多年生草本。茎は3稜形で直立し高さ50～80cmになる。葉は単葉で互生。花は8月に咲き緑白色で、唇弁の側裂片は斜め上を向き、鋸歯は低い。虫媒で風散布。群がって生えることが多い。湿地に生える。ヨシ群綱。[HH]

【分布】北海道・本州・四国・九州。

【県内の状況】利根川沿いの佐原市、旧下総町と九十九里低地、茂原市～長生村八積、それに市原市から記録されている。最も新しい記録は1972年である。

【保護対策】生育環境を良好に維持することが望ましい。観賞用の採取・販売・栽培をしないことが望ましい。

【文献】能勢保 1951 千葉県のラン科植物. 千植誌基礎資料 1(1) : 44-50 / 千葉県企画部企画課 1972 千葉県自然環境保全調査報告書. / 千植誌 2003 : 911,902.

【写真】愛知県 千葉県立中央博物館所蔵標本.



(大場達之)



A ムカゴソウ ラン科

最重要保護

Herminium lanceum (Thunb.) Vuijk var. *longicrura* (Wright) H.Hara

準絶滅危惧 (NT)

【種の特性】夏緑多年生草本。茎は20～40cm。葉は単葉で細く2～3枚が互生。花は夏に咲き淡黄緑色で唇弁のみが細長く先端は3裂するが、中裂片はごく短い。虫媒で風散布。湿原と湿った土手の草地などに生える。[H～G]

【分布】北海道・本州。朝鮮、中国、ウスリー、アムール。

【県内の状況】茂原～八積の湿地と、山武市から清澄山にかけての丘陵に分布するが、個体数は少ない。

【保護対策】湿地環境を良好に維持することが望ましい。

【文献】千植誌 2003 : 913,903.

【写真】2000.7.5 市原市 平田和弘.

(大場達之)



A ギボウシラン ラン科

最重要保護

Liparis auriculata Blume ex Miq.

絶滅危惧 IB 類 (EN)

【種の特性】多年生草本。葉は単葉で互生。虫媒で風散布。クモキリソウに似て葉が幅広く、基部が心形になる。夏緑林に生える。[H]

【分布】北海道・本州・四国・九州。

【県内の状況】浅野貞夫が1977年に高宕山の産地を報告している。

【保護対策】生育環境を良好に維持することが望ましい。観賞用の採取・販売・栽培をしないことが望ましい。

【文献】浅野貞夫 1977 ギボウシラン房総半島南部に自生する。植物採集ニュース 89 : 53-54. / 千植誌 2003 : 920,908



【写真】八丈島 能勢保所蔵標本.

(大場達之)

A ヒメフタバラン ラン科

最重要保護

Listera japonica Blume

【種の特性】小形の多年生草本。葉は単葉で茎の中間に2枚向かい合ってつく。花茎は細く、細毛がある。花は3～4月に咲き帯紫褐色。照葉樹林、モミ林あるいはスギ林などに生える。虫媒で風散布。

【分布】本州・四国・九州・琉球。

【県内の状況】清澄山、高宕山およびその周辺から報告されており、どこでも個体数は少ない。

【保護対策】鑑賞目的などの採取をしない。

【文献】千植誌 2003：914, 904.

【写真】1995.4.9 君津市 福田洋.
(大場達之)



最重要保護

A フウラン ラン科

最重要保護

Neofinetia falcata (Thunb. ex Murray) Hu.

絶滅危惧Ⅱ類 (VU)

【種の特性】常緑多年生草本。葉は単葉で互生。虫媒で風散布。6月に白色で長い距をもった香り高い花をつける。照葉樹などの樹幹・樹枝に着生する。岩に着生することもある。[E]

【分布】本州（関東以西）・四国・九州・琉球。中国。

【県内の状況】かつては社寺や民家の樹木に着生するものが見られたが、大気汚染・着生する樹木の減少、環境の乾燥化、選択的採取によって著しく減少している。

【保護対策】観賞用の採取・販売・栽培をしないことが望ましい。

【文献】正宗徹敬・里見信生 1963 北陸の植物 12(2)：33. / 千植誌 2003：923,910.

【写真】1994 宮崎県産千葉市栽培。 大場達之
(大場達之)



A ムカゴサイシン ラン科

最重要保護

Nervilia nipponica Makino

絶滅危惧 IB 類 (EN)

【種の特性】多年生の小形草本。地下に塊茎があり、塊茎から直上する地下の茎の途中から横に細い地下茎を出し、その先端に新しい塊茎をつけ、数個体がやや集まって生える。葉は花の後に出て五角状円形で1枚。花は5月で、細い褐色の花茎の先に1花をつけ、やや下向きに半開状態で咲く。萼片は緑褐色、内花被片は白色で紅紫色の斑紋がある。虫媒。風散布。夏緑樹の二次林とヒノキ林の下で見つかった。(G)

【分布】本州(関東以南)・伊豆諸島・四国・九州・琉球。千葉県周辺では伊豆大島、東京都目黒区、栃木県、神奈川県三浦半島などでの記録があるが極めて稀である。

【県内の状況】君津市で2007年に発見された。

【保護対策】無用の採集を慎む。自生地周辺の環境を保持する。

【文献】大野啓一 2007 房総半島におけるムカゴサイシンの発見。千葉県植物誌資料 23: 197-198.

【写真】

2008.5.28

君津市 大

場達之。

(大場達之)



A アワチドリ ラン科

最重要保護

Orchis graminifolia (Reichb. f.) Tang et Wang var. *suzukiana* Ohwi

絶滅危惧 IA 類 (CR)

【種の特性】小型の多年生草本。葉は単葉で根生。虫媒で風散布。地下に丸い球根をつける。花は淡紅紫色に濃い紅紫色の斑点がある。花期は6月。日陰から半日陰の岩場の岩隙などに生える。イワキンバイ群目。[E]

【分布】本州。房総半島に固有。

【県内の状況】房総丘陵南部に多くの産地が知られていた。はじめウチョウランとして知られていたが、大井次郎が鈴木吉五郎の採集品をもとにウチョウランの変種として識別した。ウチョウランの地方変異の一つである。観賞用の採取のため激減し、現在確実な産地は知られていない。高価に取り引きされるために、かつては岩場にザイルを用いて根こそぎ採取していたという。現在でも県内外の山草屋において高価に販売されている。このほか本種に

近似するものが鴨川市嶺岡山にあり、山草家の間でガンコランと呼ばれているというが、植物学的な検討は行われておらず、現地では絶滅し、山草愛好家の間で栽培品のみが残っている。

【保護対策】観賞用の採取・販売・栽培をしないことが望ましい。本来の生育地は急峻な崖で、通常は人為が及ばぬ場所であるから、採取行為を停止すれば個体群が復活する可能性が高い。

【文献】大井次郎 1969 アワチドリ。植物研究雑誌 44(2): 47 / 橋本保・神田淳 1981 原色野生ラン: 32 / 大場達之 1996 千葉県の自然誌本編 1: 311-312. / 千植誌 2003

【写真】1998. 君津市 尾崎煙雄。

(大場達之)



A サギソウ ラン科

最重要保護

Pecteilis radiata (Thunb.) Raf.

準絶滅危惧 (NT)

【種の特性】多年生草本。葉は単葉で互生。花は7～8月で白色、唇弁の側裂片は糸状に深く裂ける。虫媒で風散布。地下に球状の塊茎をつくり、群生することが多い。ヨシ群綱。湿原に生える。[HH]

【分布】本州・四国・九州。

【県内の状況】県北部には多くの産地が知られ、かつては茂原市～長生村八積周辺などでは普通に見られたが、開発による湿地の消滅と、観賞目的の選択的採取のためにほとんど見られなくなった。

【保護対策】山武市で行われているように湿地を保護するとともに、観賞用の採取・販売・栽培をしないことが望ましい。

【文献】能勢保 1951 千葉県産のラン科植物。千植誌基礎資料 1(1): 44-50. / 千植誌 2003: 911,901.

【写真】1990. 旧成東町 谷城勝弘.

(大場達之)



最重要保護

A マツラン ラン科

最重要保護

Saccolabium matsuran Makino

絶滅危惧 II 類 (VU)

【種の特性】常緑多年生草本。主にモミあるいはカヤの樹幹に着生。葉は互生し質厚く、密につき暗紫色の斑点がある。花は5～6月、黄緑色で暗紫色の斑がある。虫媒で風散布。(E).

【分布】本州(宮城県以南)・四国・九州・琉球。

【県内の状況】かつては九十九里浜のクロマツ林に多く見られたという。清澄山と三石山で記録されているが、激滅し絶滅の可能性が考えられたが、2007年に君津市で自生地が発見された(台風による落下個体)。

【保護対策】園芸目的などの採取を行わない。自生地の環境を良好に保全する。

【文献】千植誌 2003: 923, 910.

【写真】1985 奈良県 大場達之.

(大場達之)



A クモラン ラン科

最重要保護

Taeniophyllum glandulosum Blume

【種の特性】小型で無葉性の多年生草本。無葉。虫媒で風散布。照葉樹林帯の主として常緑樹の樹幹に着生する。緑葉を欠き緑色の根で樹皮に着生する。花は淡緑色でごく小形。花期は5～6月。密集した自然林には少なく、空中湿度が高く、しかも樹幹に光の当たる林縁または、やや開けた林、ツツジ類の植え込み、梅林、イヌマキの生け垣、稀に石垣にも着生。特に社寺林に多く見られる。[E]

【分布】本州（福島県以南）・四国・九州・琉球。朝鮮南部。

【県内の状況】旧安房小湊町、大多喜町、千葉市、長南町、旧光町などに分布が知られている。もともと個体数が少なかったが、生活の根拠となる社寺林の樹木の減少と、大気汚染による枯死衰退で現在は極めて稀である。栽培は極めて

困難であるにもかかわらず、稀少なラン科植物であることから採取され、人目につくところでは壊滅状態である。

【保護対策】観賞用の採取・販売・栽培をしないことが望ましい。生育地の社寺林などの保全に努めることが望ましい。

【文献】能勢保 1951 千葉県産のラン科植物・千植誌基礎資料 1(1): 44-50 / 正宗巖敬・里見信生 1961 北陸の植物 9 (3-4): 65. / 千植誌 2003: 922, 910.

【写真】1998. 清澄山 大場達之。(大場達之)



A オオハクウンラン ラン科

最重要保護

Vexillabium fissum F. Maek.

絶滅危惧Ⅱ類 (VU)

【種の特性】小型の常緑多年生草本。葉は単葉で互生。花は7月に咲き白色で唇弁が目立つ。虫媒で風散布。ハクウンランによく似ているが全体に大形である。ハクウンランと同種と考える説もある。ハクウンランはシイ・カシ帯上部からブナ帯下部のやや明るい夏緑林の中に生えるが、オオハクウンランは暗い照葉樹林あるいは竹林の下の厚い腐植層のあるところに生える。カクレミノ・スダジイ群目。[Ch]

【分布】本州（伊豆諸島、房総半島、三浦半島）

【県内の状況】清澄山、千葉市からの報告がある。小形で目立たない植物で群れて生えることが少ないので記録されることが少ないが、

実際の分布はさらに広いと考えられる。

【保護対策】生育環境を良好に維持することが望ましい。観賞用の採取・販売・栽培をしない。

【文献】新千植誌 1975: 445 / 千植誌 2003: 917, pl.907.

【写真】(左) 1985 三浦半島 大場達之 / (右) 1997 千葉市 小田嶋晴子。(大場達之)



【種の特長】常緑多年草。茎は地表を這い先端は直立し、3枚ほどの葉を集めつる。葉は濃緑色で縁が波打つ。9月頃葉の集まりの中心から高さ15～25cmの花茎を出す。側萼片は緑色でやや下方に開出する。上萼片は赤みを帯びた緑色、内花被片は淡黄色。照葉樹林のやや乾いた尾根筋などに生える。(H)

【分布】本州（関東南部）・伊豆諸島・四国・九州。台湾。

【県内の状況】2002年に迫田昌宏、玉井明子、中尾茂樹によって館山市の数ヶ所で発見された。近接する伊豆大島には、かなり大きな群落があるので、その方面から比較的近年に由来した

と考えられる。オシマシスランと混生して見られ、花の時期も同じである。

【保護対策】鑑賞目的などの採取を行わない。

【文献】迫田昌宏・玉井明子・中尾茂樹 2003 千植資料 (2003)19:146-147. / 千植誌 2003: 906,918.

【写真】2008. 館山市 大場達之。(大場達之)



